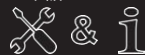




USER MANUAL

CROSSFIRE 500 / CROSSFIRE 500 X

日本語



Type: BX500

BRIT^NTON^E
MOTORCYCLES

この度はBRIXTON製品(車両)をご購入いただきまして誠にありがとうございます。このオートバイは、安全性、耐久性に優れ、日々のストリートユースに最適なモデルとしてご使用いただけます。個性的なスタイルと、ユニークなデザインが、ライダーのセンスを引き出し、乗る人を時代の先端へととざないながら、尽きることのない探求心を刺激してくれることでしょう。

オートバイに乗ることは、非常に魅力的なスポーツをすることである、とも言えます。ライディングを最大限にお楽しみいただくためにも、初めて本車両にお乗りいただく前に、必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みいただきますようお願い申し上げます。

このオーナーズマニュアルには、お客様の車両の適切なお手入れとメンテナンス方法が記載されています。お客様の車両をより長く、安全に故障なくご使用いただくためにも、このマニュアルの説明事項を守っていただきますようお願いいたします。また、点検・修理の際は、BRIXTON正規販売店にてサービスを受けていただきますようお願い申し上げます。

本マニュアルに記載の情報・図・データ等は、本書作成当時の製品情報に基づいております。その後の車両の改良などにより、一部の情報がお客様の車両に正しく反映されない場合がございますのでご了承ください。



マニュアル内、重要事項について

本書では特に注意していただきたい情報について、次のように表記しています：

▲ 警告 ▲

この表示は、必ず守っていただきたい「警告」の表示です。この表示を無視して誤った取り扱いをすると、死亡また重傷を負う事故につながる可能性がある内容であることを示しています。

注 意

「注意」は、車両の損傷を避けるための特別な注意事項を示しており、本書内の重要な情報の記載であることを示しています。

注 意

車輛を売却される場合も、本書はメンテナンス/サービス記録として必ず車両に添付してください。メーカーによる車輛の継続的な改良により、本書を作成当時の情報と実際の車両との間に差異が生じることがございます。本書、あるいは実際の車両に関するご質問は、BRIXTON正規販売店までお問い合わせいただけますようお願いいたします。

▲ 警告 ▲

本書に記載されている内容は、お客様の安全のためのものです。車両を操作する前に、必ずこのオーナーズマニュアルをよくお読みいただくようお願いいたします。公道での走行は、お住いの地域の法律に従った適正な免許証をお持ちの方で、車両の操作方法や使用について熟知している方が運転してください。安全に末永くお乗りいただくためにも、適切にメンテナンスを行い、交通ルールに従って安全にお乗りいただくようお願いいたします。

* 製品および、仕様は予告なく変更されることがございます。



目次

はじめに	1
重要なマニュアル情報	2
目次	4
安全情報	8
注意	8
日常点検と定期メンテナンス	8
安全運転	8
防護服	9
修正	9
ローディングアクセサリー	9
アクセサリー	9
燃料と排気ガス	10
駐車場	10
安全運転のためのヒント	10
車両説明	11
コンポーネント	11
ドライバーから見たコンポーネント	12
消費者情報	13
車両識別番号 (VIN)	13
インストルメントとコントロール機能	14
インストルメント	14
キー	15
イグニッションスイッチ (メインスイッチ)	16
左ハンドルバー	16
右ハンドルバー	17
フロントブレーキバーの調整	17
燃料タンク	18
ギアシフトペダル	19

シートロック機構	19
リアブレーキペダル	19
ヘルメットハンガー	20
サイドスタンド	20
リアショックアブソーバー	20
アンチロック・ブレーキ・システム (ABS)	21
運転前の点検	22
運転前点検リスト	23
運転操作と重要なライディングポイント	24
エンジンの慣らし運転	24
推奨エンジン回転数	24
ギアとエンジン回転数	24
低い一定エンジン回転数での慣らし運転は避けてください	24
走行前のオイル循環	24
新しいタイヤの慣らし運転	24
ライディングの要点	25
エンジンの始動	25
エンジンの冷間始動	25
コールドスタートの問題	25
暖気運転	26
暖気運転の問題	26
モーターサイクルの運転	26
トランスミッション	26
坂道での走行	27
ブレーキと駐車	27
最初の整備	27
定期整備と軽整備	28
ツールキット	28
燃料タンクの取り外し	28

目次

燃料タンクの取り付け	28
潤滑ポイント	29
バッテリー	29
バッテリーの取り外し	29
エアフィルタードレンチューブ	30
スパークプラグ	31
スパークプラグの取り外し	31
スパークプラグの点検	31
エンジンオイル	32
オイルレベルの点検	33
オイル交換	33
オイルフィルターエレメント	33
クーラント	34
クーラントの交換	35
燃料パイプ	36
クラッチレバーの遊び	36
小調整	36
大調整	36
スロットルボディ	37
スロットルケーブルクリアランス	37
蒸発放出制御システム-EVAP	37
ドライブチェーン	38
スプロケットの摩耗表示	38
ドライブチェーンのクリーニングと注油	39
ドライブチェーンの調整	39
ブレーキシステム	39
フロントブレーキフルードリザーバ	40
リアブレーキフルードリザーバ	41
フロントブレーキパッド	41
	42

リアブレーキパッド	42
フロントブレーキパッドの摩耗限界	42
リアブレーキパッド摩耗限界	42
フロントブレーキディスク	43
リヤブレーキディスク	43
タイヤ	43
タイヤの空気圧と負荷	44
タイヤの状態と仕様	44
ヒューズ	45
ECU（エンジン・コントロール・ユニット）	46
サイドスタンド	46
フロントフォーク	46
ステアリングヘッドベアリング	47
ホイールベアリング	47
リアショックアブソーバー	47
トラブルシューティングトラブルシューティング表	48
清掃と保管	49
車両の清掃	50
クリーニング前	50
通常使用後のクリーニング	50
雨天走行、海辺、塩撒き道路走行後のクリーニング	50
クリーニング後	50
保管	50
短期（数日間）	51
長期（数週間）	51
防錆	51
仕様	51
備考欄	52
メモスペース	57

安全にお乗りいただくために

心掛けていただきたいこと

このオーナーズマニュアルを、走行前によくお読みいただき、車両の適切な操作方法や特徴、能力について十分に理解するようにしてください。また、本書は、車両を安全に運転するために必要な技術や技能のすべてを記載・説明するものではありません。

BRIXTONでは、すべてのライダーが安全に車両を運転することができるように、ライダーには適切な訓練やトレーニング、あるいはスクールの受講を推奨していません。

日常点検と定期メンテナンス

オートバイを正しく整備し、安全に運転できる状態に保つことはとても重要なことです。

毎走行前には必ず正しく走行前点検を行い、適宜、必要とされる整備作業を実施してください。

定期メンテナンス等の詳細は、「メンテナンスと修理」の項目を参照してください。

BRIXTON正規販売店では、車両を熟知したスタッフが適切な工具と純正部品を用意してお待ちしています。

ライダーの安全を最大限に確保するためにも、定期メンテナンスは必ずBRIXTON正規販売店に依頼するようお願いいたします。

安全にお乗りいただくために

- ・乗車前の事前チェックは、事故を未然に防ぐためにも非常に重要です。
- ・運転者や同乗者、また、荷物の最大積載制限を守ってください。
- ・2輪車の事故の大半は、4輪車からの見落としにより起こるとされています。公道走行において、適切な範囲内において目立つ工夫をすることは、このような事故を減らすためにも有効とされています。
- ・明るい色で、ライダーの身体を守るウェアを着用してください。
- ・曲がるときは必ずウinkerを適切に作動させ、また、交差点に差し掛かるときや通過する際は、適切にスピードをおとして徐行するよう心掛けてください。

- ・他の車両と常に適切な車間距離を保ち、且つ、自身の位置を相手に認識させるようにしましょう。
- ・自身の運転スキルや限界をよく知るようにしましょう。
- ・ライディングに適さない人や運転資格のない人には絶対に車両を貸さないでください。
- ・常に法定速度を守り、交通法規を遵守するようにしましょう。
- ・車輛を適切に、バランスよくコントロールするためには、同乗者を含めたライダーの正しい運転姿勢が重要です。
- ・走行中、ライダーは両手をハンドルバーに、両足はフットレストに置き、シートに対してまっすぐに座るようにしてください。
- ・同乗者は、同乗者用フットレストに両足をかけた状態で、グラブハンドルや運転者にしっかりとつかまることが出来るよう確認してください。
- ・アルコール摂取後や、薬物使用下での運転は固く禁じられています。
- ・この車両はストリート(公道)走行用に設計されていますので、サーキットのような公道外での使用には適していません。

安全にお乗りいただくために

ライディングに適した服装

事故の際に身を守ることができる、プロテクション機能のある服装でライディングを楽しみましょう。

- ・ 走行中、異物や雨滴から目を保護するために、必ずフェイスシールド付きの公認ヘルメットを着用してください。
- ・ 万が一の事故の際、怪我の程度を軽減するためにも、適切な上着、靴、手袋などを必ず着用してください。
- ・ ダブつきのある(ゆったりすぎる)服装は、操作レバーや車輪などに引っかかる可能性がありますので、絶対にやめてください。
- ・ エンジンや排気系のパーツは、運転中や運転直後は非常に熱くなりますので、絶対に触れないようにしてください。
- ・ やけどを負う恐れがありますので、常に足、足首等を覆える服装でお乗りください。

改造

不正な改造をほどこしたり、純正パーツを取り外して乗ることは、車両の安全性をそこなうことになり、事故につながる恐れがあります。また、改造車

に乗ることは、違法行為につながりますので絶対にやめましょう。

積載

運転者、同乗者(同乗可能な車両の場合)、付属品、貨物等の合計重量は、最大積載量を超えてはなりません。

最大積載量*

160 kg

*運転者や同乗者の体重、アクセサリ類を含めた荷物の積載量。

決められた重量制限内で積載する場合も、以下の点に注意してください:

- ・ 積載荷物(または取り付けるアクセサリ)の重量の重心は、できるだけ低い位置、車両に近い場所に置いてください。また、できるだけ左右均等に配分してバランスを取り、不安定さを最小限に抑えるようにします。
- ・ 積載荷物やアクセサリが、車両にしっかりと固定されていることを確認してください。
- ・ ハンドル操作の妨げになり、安全走行に支障をきたす恐れがあるので、ハンドルバー、フロントフォーク、フロントフェンダーに、大きな物や重い物は絶対に取り付けないでください。

アクセサリについて

アクセサリ類は、この車両用に特別に設計された純正アクセサリがあります。詳しくはBRIXTON正規販売店にお問い合わせください。メーカーは、市販されているすべての非純正品アクセサリについて検査することはできません。非純正アクセサリの取り付け、使用につきましては、お客様ご自身の責任で行ってください。

アクセサリを装着する際は、次の点にご注意ください:

- ・ シート高や車両の高さそのものに影響を与えるようなアクセサリの取り付けや荷物の運搬、またサスペンションの走行制限になるような取り付け方、ステアリングやライト、リフレクターが隠れるような取り付け方などは絶対にしないでください。
- ・ この車両は、オンロード(舗装路)での走行を目的として作られています。横風を受けると非常に不安定になり危険ですので、無理に積載を高めるために、大きなキャリアを取り付けたりしないでください。

安全にお乗りいただくために

- ・電装品アクセサリ等を取り付ける際は、車両の電気系統の容量を超えないように注意してください。不適切な取り付けは電気系統の故障、エンジン出力の低下、または車両の破損の原因にもなります。取り付けの際は、必ずBRIXTON正規販売店にご相談ください。

燃料と排気ガスについて



警告

ガソリンは可燃性の高い液体です！

- ・給油の際は、必ずエンジンを切ってください。
- ・給油中、エンジンやマフラーなど高温になっている部分に、ガソリンをこぼさないよう注意してください。
- ・給油中に煙草を吸ったり、携帯電話を使用しないでください。
- ・閉め切った場所でエンジンをかけたり、長時間運転させないでください。

- ・排気ガスには毒があり、多量に吸い込むと短時間で意識を失い、死に至ることがあります。
- ・車両から離れるときは、必ずエンジンを切り、鍵を取り外してください。
- ・ガソリンに水が入らないよう、また皮膚に直接触れないよう注意してください。万が一、ガソリンを飲み込んだり目に入った場合は、すぐに医師の診断を受けてください。

駐車

車両を駐車するときは、次のことに注意してください：

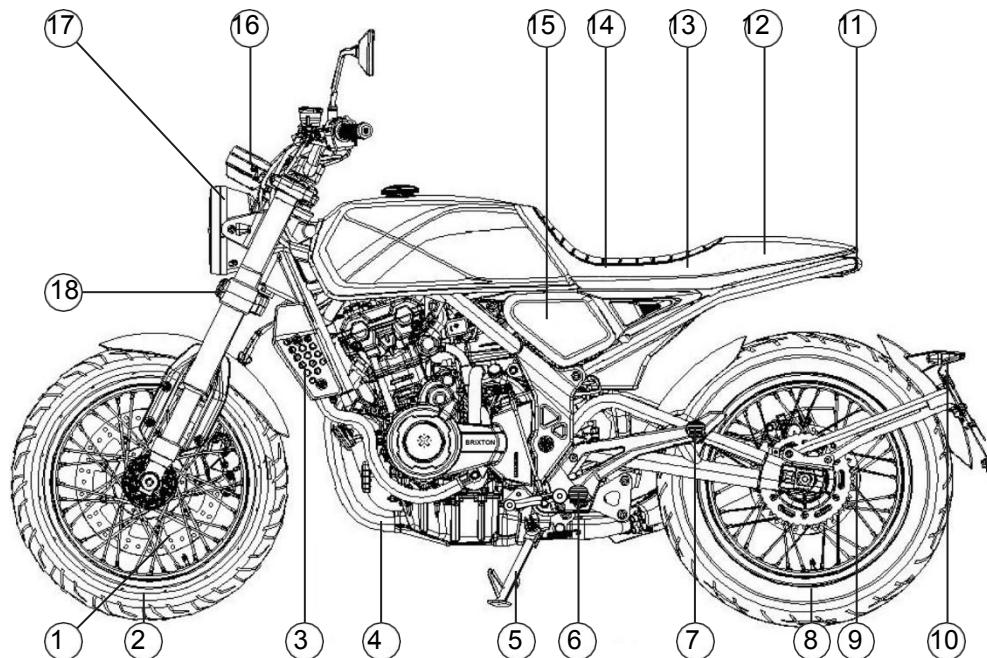
- ・走行直後は、エンジンやマフラーは高温になっています。歩行者や子供、動物等が触れて火傷をしないよう注意してください。
- ・車両が倒れる恐れがあるので、傾斜地や、地面が柔らかい場所には駐車しないでください。
- ・可燃性の高い場所やその近くに、車両を駐車しないでください。

より安全にお乗りいただくために

- ・必ずウインカーを点灯させてから曲がります。
- ・雨天時や濡れた路面では、急ブレーキを避け、スピードを抑えて走行します。
- ・予期せず、突然ドアが開くかもしれません。駐・停車している車の横を追い越す際は十分に注意しましょう。

コンポーネント

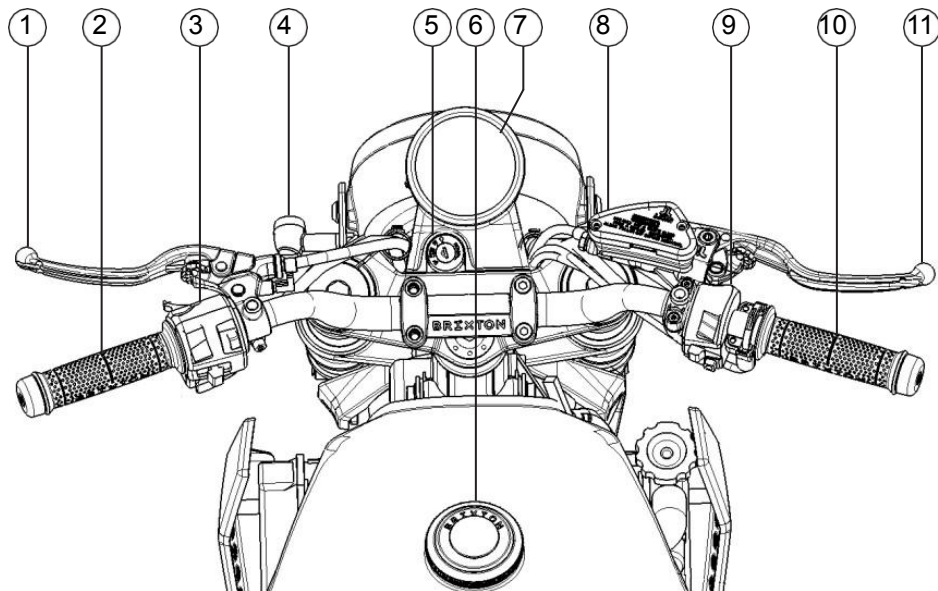
1. フロントブレーキディスク
2. フロントタイヤ
3. ラジエーター
4. エキゾーストパイプ
5. サイドスタンド
6. ドライバーフットレスト
7. パッセンジャーフットレスト
8. リアタイヤ
9. リアブレーキディスク
10. ナンバープレートライト
11. テール/ブレーキライト
12. ツールキット
13. ヒューズ
14. バッテリー
15. エアフィルター
16. スピードメーター
17. ヘッドライト
18. 倒立フォーク



車両の説明

ライダーから見た各部

1. クラッチレバー
2. 左グリップ
3. 左ハンドルスイッチ
4. ウィンカー
5. メインキー
6. 燃料タンクキャップ
7. スピードメーター
8. ブレーキフルードリザーバ
9. 右ハンドルスイッチ
10. スロットルグリップ
11. フロントブレーキ



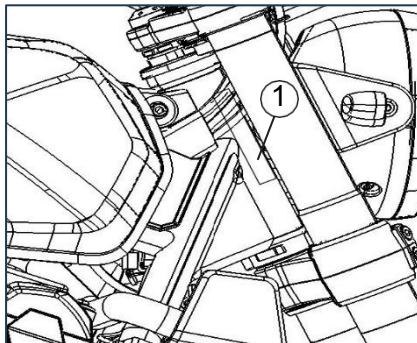
車両識別番号 (VIN)

車両識別番号 (VIN) は、ステアリングヘッドに刻印されています①。

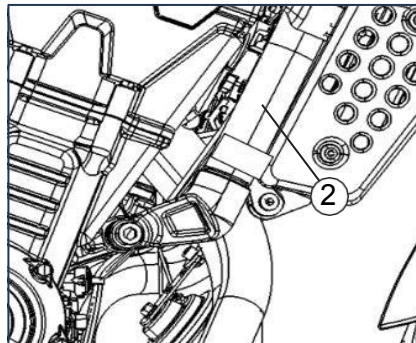
製品番号ラベルは、フレームの右下にあります②。

エンジン番号は、クランクケースの左側に刻印されています③。

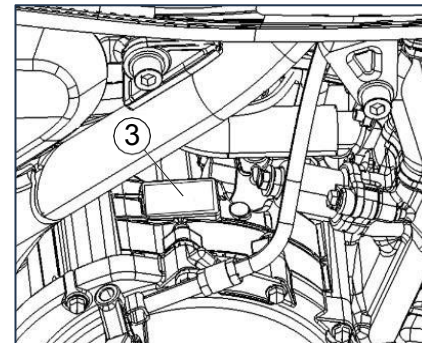
車両識別番号



製品番号(改ざん防止)



エンジン番号



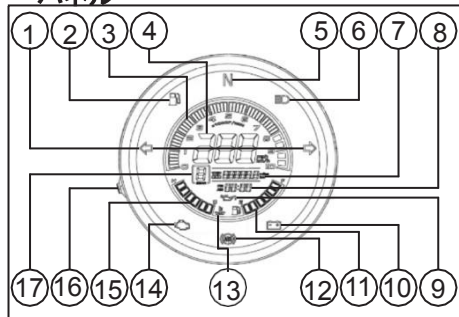
1. 車両識別番号: _____
2. 製品ラベル: _____
3. エンジン番号: _____

注意

車両識別番号は、お客様の車両を識別するための非常に大切な番号です。
また、車両を登録する際に必ず必要となります。

パネルとコントロール系の操作

パネル



1. ウィンカーインジケータ

左右のウィンカースイッチを入れると、連動してウィンカーインジケータライトが点滅します。

2. 燃料残量警告灯

燃料タンク内の燃料残量を表示します。燃料残量が2リッター以下になると、燃油残量低下インジケータが点滅します。

3. タコメータ

実際のエンジンの回転数を、RPM(毎分回転数)で表示します。

4. スピードメータ

実際の速度を、km/hで表示します。

5. ニュートラルポジションランプ

ギヤがニュートラルポジションにあるとき、ポジションランプが点灯し

14 ます。

▲ 警告 ▲

ギヤがニュートラルで、「N」マークが点灯している時にクラッチを切る場合は、ゆっくりと行き、ギヤが入っていないことを確認してください。

6. ハイビームインジケータ

ヘッドライトがハイビームになると、インジケータライトが点灯、あるいは追い越しスイッチを押しても点灯します。

7. オドメータ

総走行距離(ODO)は、移動した総距離を記録して表示します。調整ボタンを短く1回押すと、表示がオド表示からトリップ(前回トリップボタンをリセットしてからの走行距離)表示に切り替わります。トリップデータをリセットするときは、トリップ表示になっているときに調整ボタンを長押ししてください。

8. 時計

時計の表示は、12時間表示(AM/PM)です。時刻の設定ができるのは、オドメータ表示の時だけです。調整ボタンを、「時」表示が点滅するまで長押しします。その後、ボタンを短く押すことで「時」を合わせることができます。

再び、調整ボタンを長押しする「分」が点滅します。その状態でボタンを短く押すと、「分」を合わせることができます。

最後に、調整ボタンを長押しして、設定した「時間」が表示(点灯)されると、時刻のセットは終了です。

9. 油圧インジケータ

油圧が正常範囲を下回ると、インジケータが点灯します。メインキーをONにしたとき、エンジンが始動していなければこのインジケータが点灯します。エンジンを始動させると、インジケータは消灯します。

10. バッテリー電圧インジケータ

バッテリー電圧が、11.5V以下に下がるとインジケータが点灯します。その場合は、バッテリーを外して充電するか新しいバッテリーに交換してください。

11. 燃料残量量計

燃料タンク内の燃料残量を表示します。燃料が満タンの時はゲージが本表示されます。燃料レベルが4リッターになると、マークが点滅します。残量が2リッター以下になるとゲージとマークの両方が点滅します。速やかにガソリンを補充しましょう。

パネルとコントロール系の操作

12. ABS警告灯

ABSシステムに異常があると、インジケータが点灯します。

13. 冷却水温度警告灯

タンク内の冷却水温度が93°Cに達すると、警告灯(インジケータ)が点滅します。それ以上、上昇しつづけると(105°Cまで)、警告灯と同時に表示温度も点滅を繰り返します。

▲ 警告 ▲

冷却水温度警告灯と表示温度の両方が点滅したときは、温度が上がりすぎて非常に危険な状態です。直ちにエンジンを止めて、エンジンが冷えてからクーラント液の量を確認してください。

14. エンジン警告灯

インジェクションシステムのセンサーや、差動装置に異常が起ると警告灯が点灯します。速やかに、BRIXTON正規販売店にて、点検・修理を行ってください。

15. クーラント温度計

エンジンを始動させると、ラジエーターのクーラント液温度がディスプレイに表示され、ライダーが常に液温度の確認をすることができます。

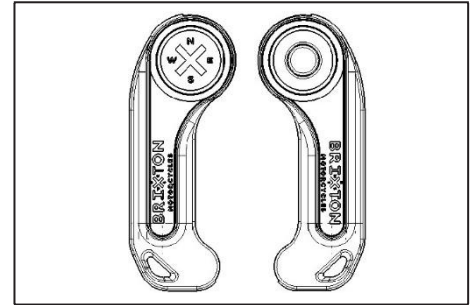
16. 調整ボタン

調整ボタンは、時計・メートル法表示と帝国単位(マイルなど)法表示の切り替え、オドメーターとトリップメーター表示の切り替えができます。スピードメーターのキロメーター(km/h)表示とマイル(mph,mi)表示を切り替えるには、まずメインキーをOFFにします。調整ボタンを押し続けながら、メインキーをONにして、ディスプレイの表示が表れるまでしばらくボタンは押し続けたまま待ちます(約10~12秒)。表示が表れたら(kmまたはmi)、調整ボタンから手を放します。

17. ギアポジション

ギアが何速に入っているか表示します。

メインキー



本車両にはキーが2本付属しています。そのうち1本はスペアキーとして適切に保管してください。

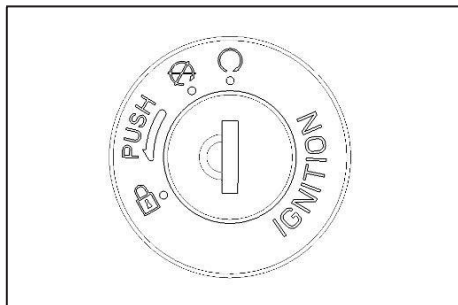
注意

キーには、リファレンスナンバー(参照番号)が記載されています。万が一に備えて番号を控えておきましょう。

キーナンバー: _____

パネルとコントロール系の操作

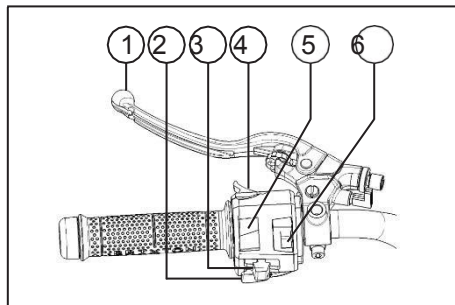
イグニッションスイッチ (メインスイッチ)



イグニッションスイッチには、3つのポジションがあります

1. イグニッション回路が繋がります。エンジンを始動させることができ、このポジションではキーを抜くことはできません。
2. イグニッション回路への接続は切られ、エンジンを始動させることはできません。このポジションではキーを抜くことができます。
3. ハンドルロックがかかります。ハンドルを左一杯に切った状態で、キーをこのポジションから押しながら の方向 回して、ハンドルをロックします。

左ハンドルバー



1. クラッチレバー

エンジンを始動するときは必ず、クラッチレバーをいっぱい引いて、クラッチを切り離してからエンジンをスタートさせるようにしてください。

2. ホーンボタン

ボタンを押すと、ホーンが鳴ります。

3. ウィンカースイッチ

ウィンカースイッチを左 に押すと、左ウィンカーとパネル上の左インジケーターが点滅します。同様に、右スイッチを 押すと、右ウィンカーとパネル上の右インジケーターが点滅します。左右とも、点滅をとめるには、ボタンを押します。

4. パッシングスイッチ

このボタンを押すとハイビーム 点灯し、話すとロービーム に戻ります。追い越しをかける際には、繰り返しこのボタンを押して、対向車に知らせます。

5. 調光スイッチ

このボタンで、ハイビーム ロービーム の切り替えをすることができます。

6. ハザードスイッチ

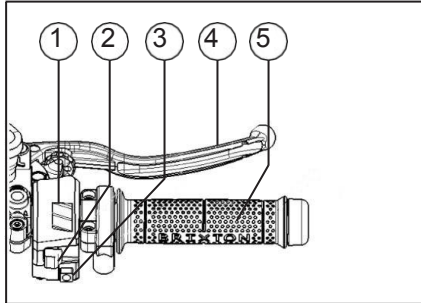
このボタンを押すと、左右前後のウィンカーが全て点滅します。

▲ 警告 ▲

車線変更や右左折時は、必ずウィンカーを適切なタイミングで点滅させ、その動作が終了したら、周囲への誤解を防ぐためにも、ウィンカーの点滅は速やかに消灯するよう心掛けましょう。

パネルとコントロール系の操作

右 ハンドルバー



1. エンジン停止スイッチ (キルスイッチ)

スイッチが ①の位置にあると、エンジンを始動することができ、スイッチが ②の位置にあるとエンジンを始動できなくなります。緊急停止スイッチでもあります。

2. ライトスイッチ

スイッチが ③の位置にあると、デイタイムライトとテールライトが点灯し、スイッチを ④の位置にすると、デイタイムライトは消灯してフロントとリアのパーキングライト、ナンバープレートライトが点灯します。

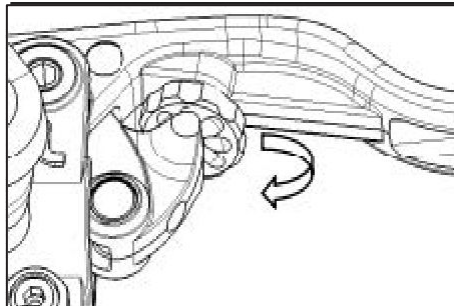
3. エンジンスタートボタン (セルボタン)

このボタンを押すと、エンジンを始動することができますが、その前に必ず、ギアがニュートラルに入っていることを確認し、クラッチレバーをしっかりと握りながら行ってください。同様にイグニッションスイッチ(メインキー)やエンジン停止スイッチ(キルスイッチ)が ⑤の位置にあることも確認しましょう。

4. フロントブレーキレバー

ハンドルバー右側のレバーが、フロントブレーキです。急な操作はできるだけ避け、丁寧な操作を心掛けましょう。

フロントブレーキレバーの調整



スロットルグリップとフロントブレーキレバーの間隔を、図のノブで調整することができます。フロントブレーキレバーを前方に押しながらノブを回転させて位置の調整を行ってください。

▲ 警告 ▲

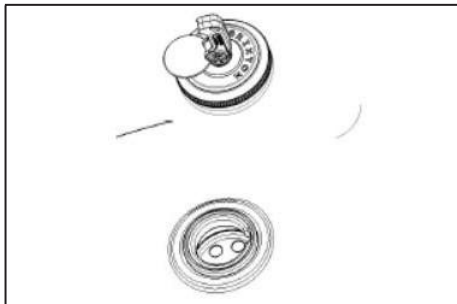
運転中にハンドルから手を放す行為は、コントロールを失う危険性を伴いません。運転中にフロントブレーキレバーの調整をするのは、非常に危険ですので絶対にしないでください。

5. スロットルグリップ

スロットルグリップを回すことによって、エンジンの回転数をコントロールします。手前(自分)側に回すと回転数が上がり、戻すと回転数が下がります。

パネルとコントロール系の操作

燃料タンク



燃料タンクは、シートの前方にあります。燃料タンクの蓋キャップを開けるには、キーホールを隠しているカバーを回転させ、鍵穴にキーを差し込んで時計回りに(止まるまで)回して、キーと一緒にタンクキャップを取り外します。

取り付けの際は、キーの付いたキャップを、ガイドに合わせて給油口に差し込み、カチッと音がするまでしっかり押し込みます。そのままではキーを抜くことができませんので、ゆっくりと反時計回りにキーを回してもとの位置に戻してから抜き取り、再びカバーを回転させて鍵穴を隠します。

▲ 警告 ▲

燃料は過剰に満タンにしないでください。

給油口の、入口下部の縁を超えないように注意しましょう。

オートバイの故障や事故につながる恐れがあるため、エンジン部分や機器類にガソリンをこぼさないように充分気をつけてください。

給油の際は必ずエンジンを止め、メインキーはオフにしてください。

燃料の蒸発や事故を防ぐため、給油後はキャップをしっかりと閉めてください。

給油中は絶対に喫煙しないでください。

万が一、ガソリンがカーボンキャニスターに入り込んだ場合、キャニスター内の活性炭が効かなくなる恐れがありますので、できるだけ速やかにBRIXTON正規販売店で、洗浄、あるいは交換を行ってください。

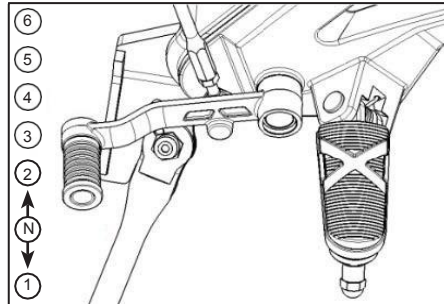
無鉛ガソリン限定
RON/ROZ min.95



!! 注意 !!
バイオエタノールE10は
適合しません

パネルとコントロール系の操作

ギアシフトペダル

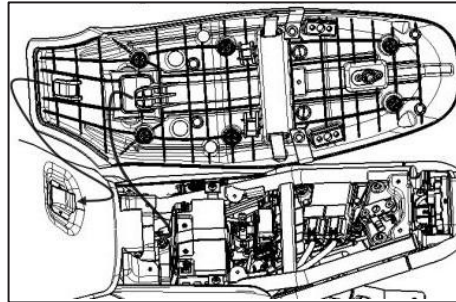


本車両には6速トランスミッションが装備されており、ギアシフトは上図のように作動します。

ギアを入れた後は、シフトレバー（ペダル）は自動的にもとの位置に戻ります。

トランスミッションの必要以上の摩耗を防ぐためにも、低速ギアに入れる際は速度を落とし、より高速ギアに入れる際は速度を適切に上げてから変速するようにしましょう。

シートロック(装着)の仕方

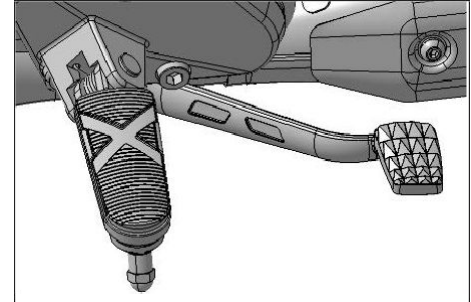


シートをロックしている鍵穴にキーを差し込んで、時計回りに回してロックを解除しシートを取り外します。取り付ける時は、シート前部にある2本のピンを呼応する位置に合わせて差し込み、シートのテールを「カチッ」という音がするまで押し下げてロックします。

▲ 警告 ▲

シートが正しい位置に固定されていないと、運転中にコントロールを失う恐れがありますので、シートがしっかりとロックされていることを確認しましょう。

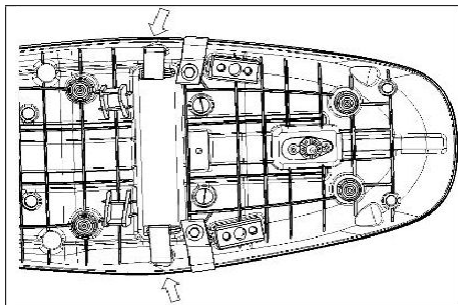
リアブレーキペダル



リアブレーキペダルを押し下げて、リアブレーキをかけます。ブレーキをかけている間、ブレーキライトが点灯します。

パネルとコントロール系の操作

ヘルメットフック



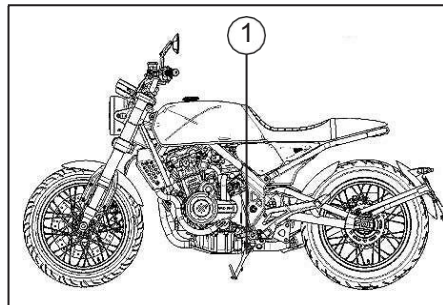
ヘルメットフックはシートの下に収納されています。シートを取り外して、フックを外側に出し、ヘルメットのストラップをフックに掛けて吊るします。シートを取り付けロックします。



警告

走行中はヘルメットフックを使用しないでください。どうしてもヘルメットを運ばなければならない時は、リアシート等に括り付けて運ぶようにしてください。

サイドスタンド

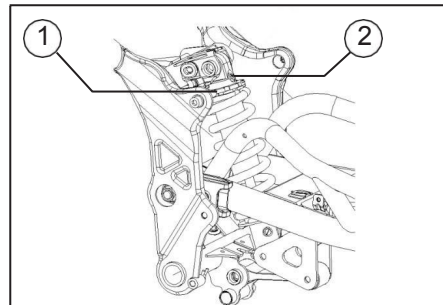


サイドスタンド(1)は、車両の左側にあります。エンジンがかかっている時にサイドスタンドを押し下げると、エンジンストップスイッチが作動してエンジンが止まります。サイドスタンドを押し上げると再びエンジンをかけることができます。

注意

車両が倒れる恐れがありますので、急な坂道などには車両を駐車させないようにしましょう。

リアショックアブソーバー



リアショックアブソーバーは、ライダーの体重、負荷のかけ方、乗り方、路面状況に応じて調整することが可能です(プリロード調整)。体重が重かったり、重い荷物を載せる場合などは、調整ネジ(1)を時計回りに回転させ、プリロードを強めて抵抗値を上げます。逆に体重が軽い場合などは、反時計回りに回して弱め、抵抗値を下げます。



警告

図内のネジ(2)を、取り外すことは固く禁じられています。

アンチロック・ブレーキ・システム (ABS)

ABS (アンチロックブレーキシステム) は、急ブレーキをかけたときに車輪がロックするのを防ぐように設計されています。ABS は前輪と後輪の2つの別々の回路で動作します。

ABS センサーが車輪のロックを感知すると、車輪が再び回転するまでブレーキ力がわずかに減少します。

ABS が作動すると、リアブレーキペダルまたはフロントブレーキレバーに小さな振動が感じられます。

ブレーキのかけ方は従来のオートバイと同様です。リアブレーキペダルでリアブレーキが作動し、フロントブレーキレバーでフロントブレーキが作動します。

ABS はホイールのロックを防止することで停止中の安定性を提供しますが、次の特性に注意してください。

- ABS は、悪路状況、誤った判断、または不適切なブレーキ操作を補償することはできません。

ABSが装備されていないバイクと同様の注意が必要です。

- ABS は制動距離を短縮するために設計されたものではありません。緩い路面、平坦でない路面、または下り坂の路面では、ABS を備えたオートバイの停止距離が、ABS を備えていない同等のオートバイよりも長くなる場合があります。このような場所では特に注意してください。

- ABS は直進ブレーキ時の車輪のロックを防ぐのに役立ちますが、コーナリング時のブレーキによって引き起こされる可能性のある車輪のスリップを制御することはできません。コーナーを曲がるときは、両方のブレーキを軽くかける程度にブレーキをかけるか、まったくブレーキをかけないほうがよいでしょう。コーナーに入る前に速度を下げてください。

- ABS に統合されたコンピューターは、車両速度と車輪速度を比較します。推奨されていないタイヤは車輪速度に影響を与える可能性があるため、コンピューターが混乱し、制動距離が延びる可能性があります。

乗車前点検

車両のコンディションを管理するのはオーナーの責任です。運転者は、車両の状態が良好であるか確認するため、毎乗車前には必ず簡単な点検を行ってください。

重大な事故や故障を防ぐためにも、必ず重要な部位の点検を行い、乗車前には以下の点をよくご確認ください。

注意

乗車前点検は、毎乗車時に行うようにしましょう。この乗車前点検は、短時間で行うことができるものですので、ライディング時の安全性を確保するためにも、必ず行ってください。

▲ 警告 ▲

乗車前点検で、正しく動作していない箇所が見つかった場合は、ご乗車になる前に必ず修理を行うようにしてください。お客様自身で修理できない不具合箇所の場合はBRIXTON正規販売店にて修理を行きましょう。

運転前チェックリスト

点検箇所	検証項目
燃料	<ul style="list-style-type: none"> 燃料タンク内のガソリン残量を確認しましょう。 必要であれば給油します。 燃料パイプなどからの漏れがないか確認します。
エンジンオイル	<ul style="list-style-type: none"> オイルレベルを確認します。 必要であれば、推奨オイルを規定のレベルまで補充します。 オイル漏れがないか確認してください。
フロントブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキレバーを握って、動作の確認をします。 握った感覚が曖昧、またはスポンジのように柔らかい場合は、油圧システムのオイル漏れの可能性があります。販売店に点検・修理を依頼してください。 ブレーキパッドの摩耗状態を点検します。摩耗している場合は交換しましょう。 リザーバ内のブレーキ液レベルを確認します必要に応じて、規定レベルまでブレーキ液を補充してください。 油圧システムからの漏れがないか、確認します。
リアブレーキ	<ul style="list-style-type: none"> ブレーキペダルを踏んで、動作の確認をします。 踏み込んだ感覚が曖昧、またはスポンジのように柔らかい場合は、油圧システムのオイル漏れの可能性があります。販売店に点検・修理を依頼してください。 ブレーキパッドの摩耗状態を点検します。摩耗している場合は交換しましょう。 リザーバ内のブレーキ液レベルを確認します。必要に応じて、規定レベルまでブレーキ液を補充してください。 油圧システムからの漏れがないか、確認します。
スロットルグリップ	<ul style="list-style-type: none"> グリップを手前に回転させ、動作がスムーズであるか確認をします。 スロットルグリップの遊びが適切であるか確認します。 異常が見られる場合は、販売店にて遊びや潤滑等の修理・調整をしてください。
ホイールとタイヤ	<ul style="list-style-type: none"> 損傷が見受けられないか確認をします。 タイヤ溝の摩耗は規定値以内であるか、全体の状態も含めて確認します。 タイヤ空気圧は適正であるか確認します。
ブレーキレバーとペダル	<ul style="list-style-type: none"> 動作がスムーズであるか確認します。必要に応じて、連結部(ジョイントなどの可動部)への潤滑を行ってください。
メインスタンドとサイドスタンド	<ul style="list-style-type: none"> 動作がスムーズであるか確認します。必要に応じて、連結部(ジョイントなどの可動部)への潤滑を行ってください。
シャシーの留め具	<ul style="list-style-type: none"> シャシーの留め具(ナット、ボルト、スクリュー)の締結を確認します。
メーターパネル、灯火類、ウインカーやスイッチ類	<ul style="list-style-type: none"> 表示、動作が正常であるか確認し、必要に応じて修正・修理をしてください。

運転の仕方と乗車時の注意

エンジンの慣らし運転

新しい車両に適切な慣らし運転を行うことは、車両の寿命を延ばしその性能を十二分に発揮させることにつながります。正しい慣らし運転の仕方は次の通りです。

推奨されるエンジン回転数

(慣らし運転期)

慣らし運転期間中に推奨される最大エンジン回転数(RPM-毎分回転数)は、下表の通りです。

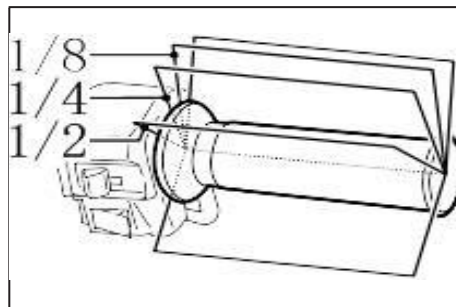
走行距離	最大回転数
最初の800km	3000回転以下
1600kmまで	4000回転以下
1600キロ以上	7500回転以下

ギアとエンジン回転数

特定のギアと回転数でエンジンを回し続けることのないように、ギアやスロットルを適切に変えて慣らし運転を行います。

低いエンジン回転数ばかりでの慣らし運転を避ける

低いエンジン回転数ばかりで慣らし運転すると、かえって部品の摩耗を促進することにつながります。スロットルの推奨開度は前回の約3/4程を守りながら、緩急をつけたつエンジン回転数を変えながら走行します。初回の500kmまでは、スロットル開度3/4を超えないようにしてください。



ウォームアップ

外気の寒暖にかかわらず、走行はウォームアップでオイルを循環させることを心掛きましょう。

タイヤの慣らし

エンジンと同じで、新しいタイヤもまた、ベストパフォーマンスを発揮させるには適切な慣らしが必要です。新しいタイヤで160km走行するまでは、タイヤ表面のコーティングを取るために、カーブなどでの傾斜角を徐々に上げて行くようにしてください。

また、新しいタイヤで160km走行までは、急ブレーキ急旋回を極力避けるようにしましょう。



タイヤの慣らしが不完全だと、スリップしてコントロールを失う恐れがあります。特に古いタイヤから新しいタイヤに交換した際は注意が必要です。160kmを目安に走り終えるまでは、急にスロットルを開けたり、急ブレーキや急旋回など、「急」の付く動作を避けるようにしてください。

運転の仕方と乗車時の注意

ライディングに必要なこと

▲ 警告 ▲

このタイプの車両に乗車するのが初めての場合は、公道ではない場所で一度試し乗りをしてみて、操作方法や乗車間隔に慣れてから公道へ出ることをお勧めします。いかなる状況でも、片手運転やハンドルから手を離して乗ることは、非常に危険ですので絶対にしないでください。同様に、足もステップにしっかりとかけてください。

コーナーやカーブでは、必ず事前に十分に速度を落として、安全に曲がれるようにしてください。濡れた路面は特に滑りやすくブレーキ性能が低下します。普段よりさらに注意しましょう。

また、トンネルの出口や谷、大型車が横を追い越して行く際などは横風が起りやすくなります。十分に注意しながら、慌てず速度を抑えて走行し、常に交通ルールに従ってください。

エンジンを始動する

エンジン停止スイッチが ④位置にあることを確認します。キーをイグニッションスイッチの鍵穴に差し込み、時計回りに ④の位置まで回転させます(On)。ギアがニュートラルに入っている場合は、ニュートラルインジケーターが点灯します。

注意

エンジンを始動させる前に、必ずギアがニュートラルに入っていることを確認してください(操作パネルにはNのシンボルが点灯します)。ギアがニュートラルでない時にエンジンを始動させると車両が前方に飛び出す恐れがあります。

エンジン始動の際は、サイドスタンドを上げ、ギアはニュートラルかあるいはクラッチレバーをしっかり握ってかけてください。

注意

車両が横転すると、センサーの働きでエンジンと燃料供給が停止されます。エンジンを再始動させるには、一度メインキー(イグニッションスイッチ)を切って1分ほどおいてから、再度キーをオンにしてセルボタンを押してかけます。

暖機運転(エンジンウォームアップ)

1. サイドスタンドをたたむ(押し上げる)。
2. スロットルが開かれていない(アイドルポジション:元の位置)ことを確認する。
3. セル(スターター)ボタンを押す。
4. エンジン始動後、そのままエンジンが温まるまで暖機運転を続ける。

注意

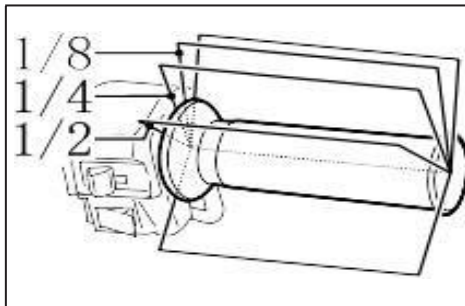
寒冷地では、ウォームアップにより時間がかかります。ウォームアップをしっかり行うことは、エンジンの摩耗を防ぐことにつながります。

外気温が低い時のエンジン始動

外気温が低くエンジンがかかりにくい時:

1. サイドスタンドをたたむ(押し上げる)。
2. スロットルを全開の約1/8ほど開けながら、セル(スターター)ボタンを押す。
3. エンジン始動後、そのままエンジンが温まるまで暖機運転を続ける。

運転の仕方と乗車時の注意



外気温が高い時のエンジン始動

1. サイドスタンドをたたむ(押し上げる)。
2. スロットルが開かれていない(アイドルポジション: 元の位置)ことを確認する。
3. セル(スターター)ボタンを押してエンジンをかける。

エンジンがかかりにくい時

外気温は高いがエンジンがかかりにくい時:

1. サイドスタンドをたたむ(押し上げる)。
2. スロットルを全開の約1/8ほど開けながら、セル(スターター)ボタンを押す。

3. エンジン始動後、そのままエンジンが温まるまで暖機運転を続ける。

注意

排気ガスは有毒です。換気の悪い場所ではエンジンをかけないでください。燃料やオイルの残量が不十分な時もやめましょう。また、エンジンをかけたまま車両を離れて放置しないようにしてください。

車両を運転する

サイドスタンドをたたみ、クラッチレバーをしっかりと引いてシフトペダルでギアを1速に入れます。スロットルを丁寧に開けながら、クラッチレバーをゆっくりと放していきます。ギアを上げていくときは、少しエンジン回転数を上げてからスロットルを戻し、クラッチを握ってシフトペダルを上押し上げてギアを変えます。同様の方法で、トップギアまでシフトを上げることができます。

トランスミッション

走行に際して、常に適切なギアで走行することは、トランスミッションの不必要な摩耗を防ぐことにつながります。

低い、または高いギアのまま走行し続けることのないようにしましょう。また、ギアを変える時は、低いギアなら適宜速度を落とし、高いギアなら速度を少し上げて変えるなど、適切なギアチェンジを行うよう心掛けましょう。

警告

高速で走行している時に不用意に急なシフトダウンを行うと、後輪に必要な以上の制動がかかり、事故につながる恐れがあります。

運転の仕方と乗車時の注意

上り坂・下り坂

上り坂を走行する際、不適切なギアだとパワーが足りずに減速してしまいます。より力のあるローギアにシフトダウンして走行しましょう。

反対に下り坂を走行する時は、ブレーキの多用による焼き付きを防ぐために、ローギアによるエンジンブレーキを活用するようにしてください。

ブレーキをかけて止まる・駐車する

スロットルを戻して、フロントとリアブレーキ両方を同時にかけ、速度が落ちてきたら低速ギアにシフトダウンしていきます。停止する段階になったら、クラッチレバーをしっかり引いてニュートラルギアに入れ（操作パネルにCONマークのインジケーターが点灯）、フロント・リア両ブレーキをしっかりかけて完全に車両を停止させ、握っていたクラッチレバーを放します。メインキー（イグニッション）を の位置にしてエンジンを停止させます。ハンドルバーをロックさせて、キーを抜き取ります。サイドスタンドを立てて駐車させますが、車両の転倒を避けるため、坂道のように傾斜のある場所であれば、車両の前方を坂の上方に向けて駐車させてください。

初回点検

新車に乗り始めて1000km走行後の、初回点検はとても大切です。エンジンや全てのパーツは、それまでの慣らし運転で整っているはずですが、パーツやエンジンコンポーネントがしっかりと固着しているか、また慣らしに使用され、摩耗粉の混ざったオイルを交換するためにも初回点検は必ず受けてください。しっかり点検を受けることが、車両のパフォーマンスを最大限に活かし、寿命を延ばすことにつながります。

▲ 警告 ▲

マフラー内の触媒の寿命を短くする原因になりますので、下り坂走行時に、イグニッションスイッチ（メインキー）をオフにしたり、エンジンを停止させて惰性で走行することはやめてください。

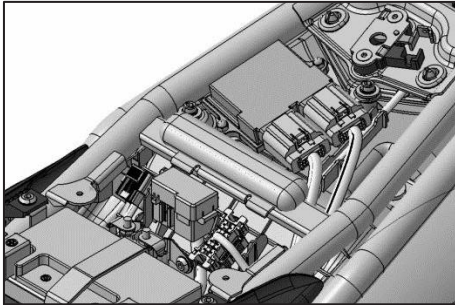
▲ 警告 ▲

走行速度が速いと制動距離はどんどん長くなります。車間距離は十分にとって運転するようにしましょう。

注意

初回1000km点検のは、「メンテナンスと修理」の項の内容に従って行ってください。

工具(ツールキット)



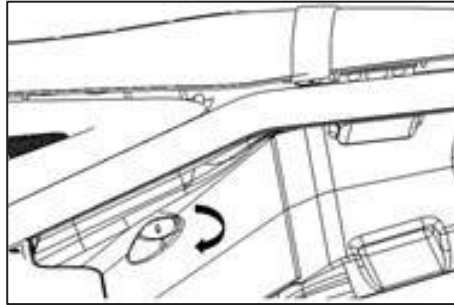
工具(ツールキット)は、シートの下にあります。シートの鍵を開けてシートを外し、キットをおさえている固定ベルトをゆるめて取り出します。

注意

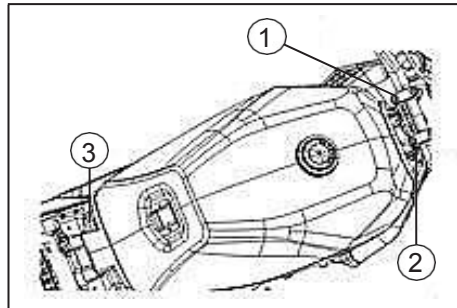
車両の安全性やコンディションは、定期点検やメンテナンスで調整や潤滑を正しく行っているかどうかにかかっています。これから先のページのメンテナンスの仕方の記載は、お客様ご自身のセルフメンテナンススキルのアップにもつながります。

燃料タンクの取り外し

1. シートの鍵を解錠してシートを外します。

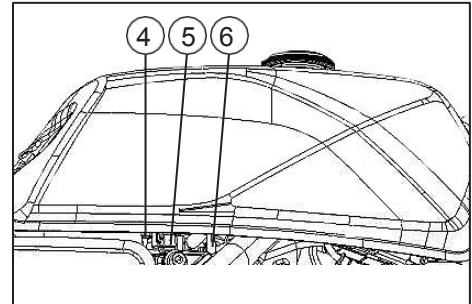


2. 燃料タンクの(1)(2)(3)のボルトを外します。



3. 燃料ポンプのコネクター(4)を外し、燃料パイプのブラケット(5)を緩めます。

ブリーザーパイプ(6)とワンウェイバルブを外します。



4. 燃料タンクを取り外します。

燃料タンクの取り付け

取り付けは、取り外しの手順を逆に行います。タンクは正しい位置にセットし、パイプも正確につなぎます。吸収チューブを接続する際は、チューブクランプは外側に向けます。燃料パイプの接続は、異物が入り込まないように充分注意を払って行ってください。

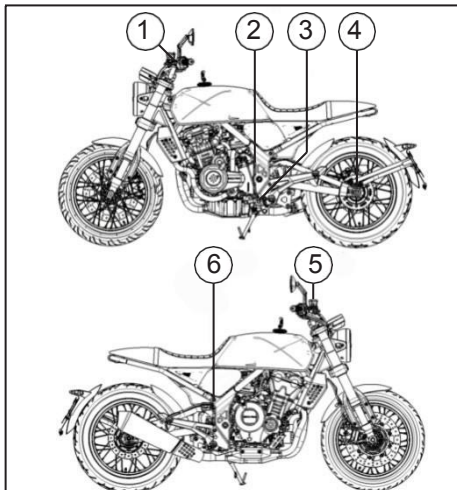
注意

燃料パイプを外す際は、ガソリン漏れに十分注意してください。

定期点検と簡単な修理

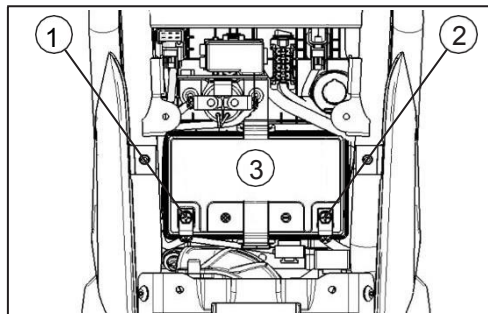
注油(潤滑)について

車両に安全にお乗りいただくためにも、各部への注油(潤滑)は定期的に行ってください。適切な潤滑やメンテナンスは、車両の寿命をより伸ばすことにつながります。長距離ライディングや、泥や雨の中を走行した後、また、洗車後などは必ず注油を行いましょう。気を付けて注油しなければならない場所は以下です



1. クラッチレバー
2. サイドスタンドとスプリングのフック部分
3. シフトレバー
4. トランスミッションチェーン
5. ブレーキレバー
6. ブレーキペダルとフットレスト

バッテリー



バッテリーの外し方

1. マイナス(-)端子の保護キャップを取り外す(1)。
2. プラス(+)端子の保護キャップを取り外す(2)。
3. 固定ベルトを取り外す。
4. バッテリーを取り外す。

バッテリーの取り付けは、外し方の逆の手順で行います。

注意

バッテリーを交換する際は、メンテナンスフリーバッテリーを取り付けてください。長期間車両を使用しない場合は、3ヶ月に一度はバッテリーを充電するようにしましょう。

警告

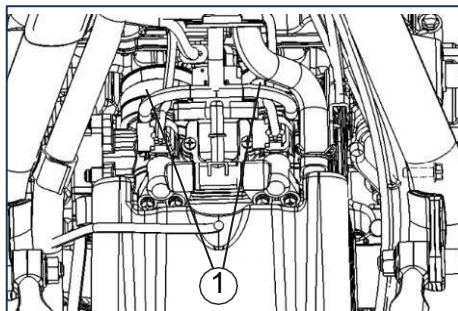
バッテリーには、人体や環境に害を及ぼす、硫酸や鉛といった非常に毒性の強い物質が入っています。使用済みバッテリーを廃棄する際は、普通ゴミに出すのではなく、お住いの地域の法律に従って廃棄処分してください。バッテリー取り外しの際は、箱の破損による液漏れなどで体に害を及ぼさないように十分に気を付けましょう。取り付けの際は、赤い線を最初にプラス極につないでから黒い線をマイナス極に接続します。順番を間違えると、電装系にダメージを与える恐れがありますので、気を付けましょう。

定期点検と簡単な修理

エアフィルター

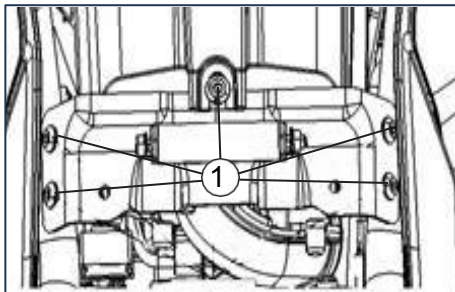
エアフィルターは燃料タンクの下にあります。フィルターが埃などによってふさがれると、吸気抵抗が増して出力が低下し、燃料消費量が増加します(燃費の悪化)。埃っぽい環境下で車両を使用する場合は、通常以上に頻りにエレメントを清掃するか、交換しなければなりません。点検・清掃は次の手順で行ってください:

1. 「燃料タンクの取り外し」項を参照して、燃料タンクを取り外します。
2. 吸気パイプのクランプ(1)を緩めます。

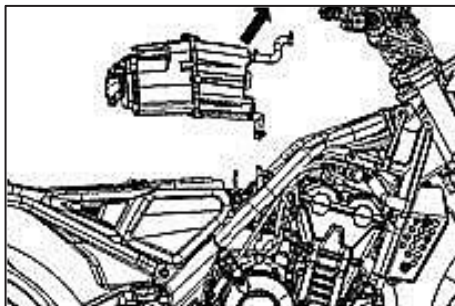


3. コネクターとブリーザーパイプを外します。

4. 燃料タンクの取り付け版を外します(1)。

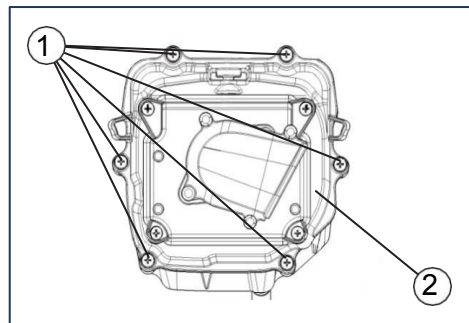


5. エアフィルターを取り外します。

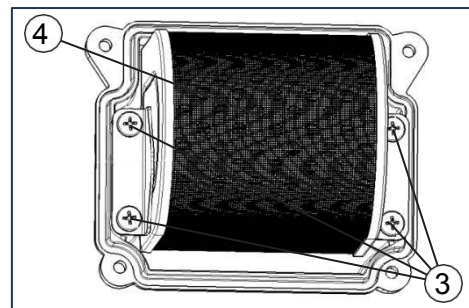


6. エアフィルターハウジングから6ヶ所のネジ(1)を外し、エアフィルターカバー(2)を取り外します。

7. ネジを4つ(3)外して、エアフィルターエレメント(4)を取り外します。



8. エアコンプレッサーを使用して、注意深くエアフィルターを清掃します。



9. 清掃した、または新しいフィルターエレメントを逆の手順で取り付けます。

定期点検と簡単な修理

▲ 警告 ▲

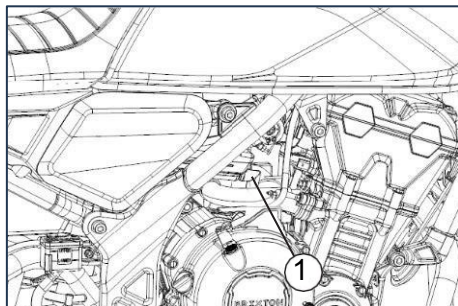
埃の多い環境で車両を使用する場合は、通常よりも頻繁にエアフィルターエレメントの清掃や交換が必要になります。

エアフィルターなしでエンジンを運転させると(エレメントを塞がないと)、エンジンの炎がフィルターの吸気室に燃え移り、エンジン内部を破損させる恐れがあります。絶対にエアフィルターなしでエンジンを運転したりしないでください。

注意

エアフィルターエレメントが正しい位置に取り付けられていないと、エンジン内部に誇りが入り込み、エンジンに大きなダメージを与える恐れがあります。フィルターエレメントが正しく取り付けられているか、必ず確認するようにしてください。

ドレンチューブ



定期点検の際は、ドレンチューブ(1)を外し、チューブ内の汚れたオイルを抜いてください。

注意

湿度の高い環境下においては、状況に合わせて点検回数を増やしてください。点検後は、ドレンチューブが正しく取り付けられているか、必ず確認をしてください。

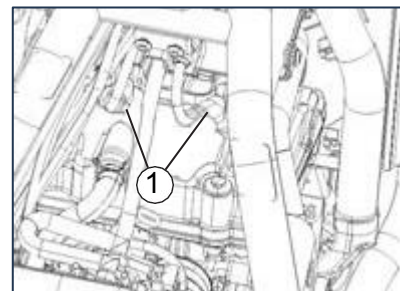
スパークプラグ

スパークプラグは、エンジンの非常に大切なパーツの一つで、プラグの状態はエンジンの状態を表すとも言われています。熱や堆積物によってプラグの劣化は徐々に進みますので、定期メンテナンス表や潤滑表に従って、必ず取り外して点検・清掃を行いましょう。

スパークプラグの取り外し

スパークプラグの取り外しは、下記の手順に従ってください。

1. スパークプラグキャップ(1)を外す。



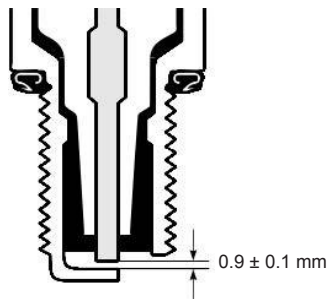
2. スパークプラグレンチで、プラグをはずします。

定期点検と簡単な修理

スパークプラグの点検



スパークプラグに付着したカーボンを、硬い鉄線または鉄の針などで清掃し、フィーラーゲージでプラグの電極のギャップを確認して $0.9 \pm 0.1 \text{ mm}$ (規定値)に調整します。



指定スパークプラグ

NGK CPR8EA

スパークプラグのギャップをフィーラーゲージで計り、必要に応じて規定値に調整します。プラグガスキットの表面の付着物は必ず拭き取り、スパークプラグレンチで取り付けて、指定のトルクでしっかりと締め付けます。

スパークプラグギャップ

$0.9 \pm 0.1 \text{ mm}$

警告

プラグの取り付け時は、トルクのかけすぎに注意してください。作業に詳しくない場合は、販売店に依頼して作業を行うことをお勧めします。

スパークプラグの締め付けトルク

12 Nm

注意

スパークプラグ電極の色合いが、明らかに異なっている場合は、エンジンが不適切な状態のまま作動している可能性があります。このような場合は、自己診断しようとせず、必ずBRIXTON正規販売店にご相談ください。



警告

指定以外のスパークプラグの使用は、エンジンの損傷を招く恐れがありますので、必ず仕様に合ったプラグを取り付けてください。

定期点検と簡単な修理

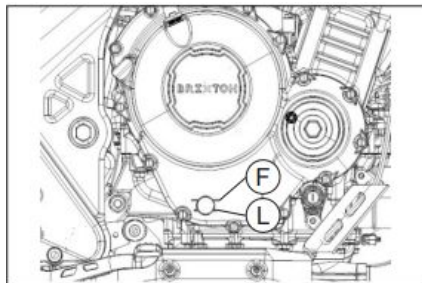
エンジンオイル

品質の確かなオイルを使用し、エンジンオイルを定期的に交換することはエンジンの耐久性を高め、寿命を延ばすことにつながります。

毎走行前には必ず点検を行い、メンテナンス表に従って定期的にオイル交換を行ってください。

オイルレベルの点検

1. 平坦な場所に、サイドスタンドで車両を安定させます。
2. エンジンを始動して、約3分間エンジンを回転させます。
3. エンジンを停止して、約3分間そのまま放置します。
4. サイドスタンドをたたんで、できるだけ車両をまっすぐな状態まで立てて、エンジン右側のオイル点検窓から、オイルレベルを確認します。オイルレベルが(F)~(L)の間であれば正常です。



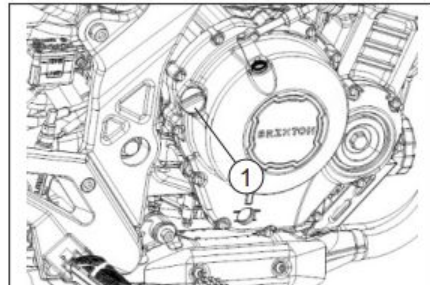
▲ 警告 ▲

エンジンオイルが過多、または不足した状態でエンジンを回転させることは、エンジンに著しいダメージを与えることにつながります。点検後は、必ずオイルレベルを確認してください。

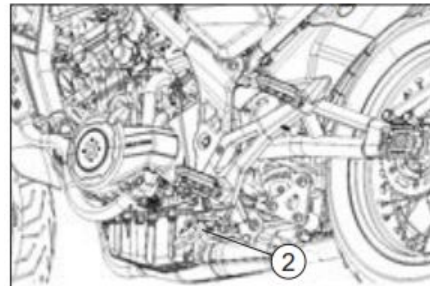
オイル交換

エンジンオイルの補充は必要に応じて、常に適宜行ってください。オイル交換やフィルターの交換は、手順や方法を間違えるとエンジンにダメージを与える恐れがありますので、販売店にて行ってください。手順は次に従ってください：

1. サイドスタンドで車両を安定させます。



2. フィルタープラグ(1)を外します。



3. ドレンパン(排出トレイ)をドレンボルト(2)の下に置きます。
4. ドレンボルトを外して使用済みオイルを排出させます。

定期点検と簡単な修理

▲ 警告 ▲

走行後のエンジンオイルやマフラーは非常に熱く火傷の恐れがあります。使用済みオイルを排出する際は、必ずドレンボルトやマフラーが冷えてから行ってください。交換時は、異物が入り込んだりタイヤやホイールにオイルが付着しないように気を付けましょう。

5. ドレンボルト(2)とワッシャーを再び取り付けて、ドレンボルト(2)をレンチでしっかり締結します。
6. 新しい「SAE 10W-40 API SJ」、またはそれ以上のオートバイ用4ストロークエンジンオイルを3000ml、オイルフィルターから補充します(オイルフィルターエレメントも交換した場合は、必要液量が3200mlとなります)。
7. オイルフィルタープラグ(1)を取り付けます。
8. エンジンを始動させ、エンジン回転数を適宜変えながら3分間回転させ、オイル漏れなどが無いか確かめます。
9. エンジンを停止させて3分間待ち、車両を出るだけ正立させて、オイル点検窓からオイルレベルを確認し

ます。オイルレベルが「L」より下にある場合は、新しいオイルを「F」のラインまで足して、オイル漏れなどが無いか確認します。

エンジンオイル容量
3.0L フィルター交換なし
3.2L フィルター交換あり

指定エンジンオイル
SAE 10W-40 JASO MA2 API SJ 推奨：MOTUL 7100 4T 10W40エンジンオイル

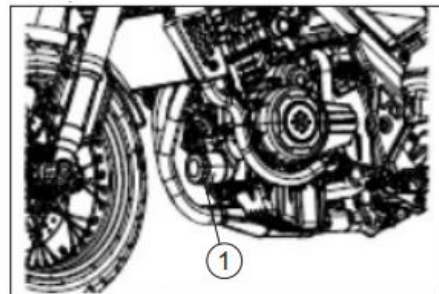
オイルフィルターエレメント

メンテナンス表に従ってフィルターエレメントを交換します。オイル交換などで、使用済みオイルを排出した時などに、エレメント交換をするのが望ましいです。

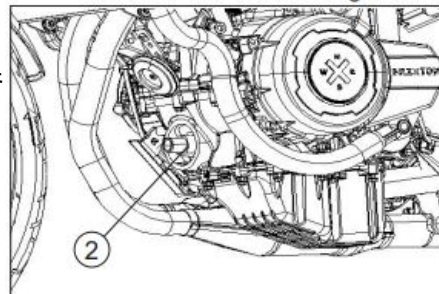
手順は次に従ってください：

1. 「オイル交換」の項を参照して、エンジンオイルを排出させます。

2. フィルターエレメント(1)を、オイルフィルターレンチを使用して反時計回りに回して外します。

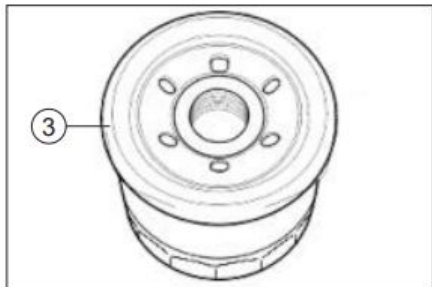


3. 布を使用して、エレメント取り付け面(2)の汚れや使用済みオイルを拭き取ります。



定期点検と簡単な修理

4. 新しいフィルターエレメントのシールリング(3)に、新しいオイルを少し塗ります。



注意

指定外のものや、ネジ山の合わないフィルターエレメントの使用は、エンジンの損傷を招きます。必ず純正部品を使用してください。

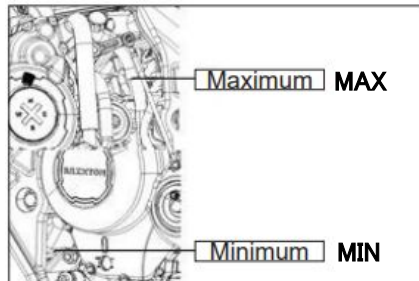
5. シールリング(取り付け面)に接触するまで、新しいオイルフィルターエレメントを手で回します(少し抵抗を感じるくらいまで)。
6. 手回しで締めた位置に印をつけ、そこから2回転させて締結するか、または既定のトルクで締結させてください。

フィルターエレメントのトルク

20 Nm

7. ワッシャーとともにドレンボルトを取り付け、「オイル交換」の項を参照して新しいエンジンオイルを補充してから、オイルフィルタープラグを取り付けます。エンジンを始動させて、オイル漏れがないか確かめ、エンジン停止後にオイルレベルが適切か確認します。

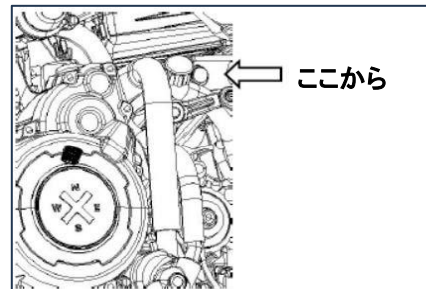
冷却水



クーラントタンク内の液レベルは、常に「MAX」と「MIN」の間に保たれていなければなりません。液レベルは常に点検を怠らないようにしましょう。

クーラント液が「L」より下がっている場合は、適切なクーラント液を、次の手順で補充してください。

1. サイドスタンドで車両を立て、安定させます。



2. クーラントタンクの蓋を開け、適切なクーラント液を「F」のラインまで補充します。

▲ 警告 ▲

クーラント液が空になってしまったら、冷却システムに異常がないか確認して、速やかに液の補充をしてください。

クーラント液点検は、エンジンが冷えている時に行ってください。

定期点検と簡単な修理

▲ 警告 ▲

クーラント液は、人体や動物にとって非常に有害で、誤って飲み込むと致命的な害を及ぼします。誤飲した場合は、吐かせたりせず、できるだけ早く医療措置を受けてください。また、液が目に入ってしまった場合も、すぐに綺麗な水でよく洗い流して、早めに医師に相談するようにしてください。

作業中は、子供やペットが近づいてクーラント液に触れることのないように注意し、作業終了後は手をよく洗ってください。

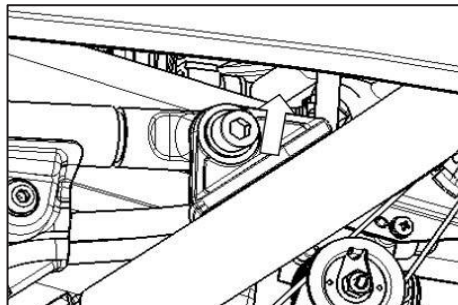
クーラント液の交換

クーラント液は、2年ごとに交換します。交換の際は、リザーバータンクとラジエーターに、合計約2.9Lの液を補充する必要があります。

クーラント液量

2.9L

燃料パイプ



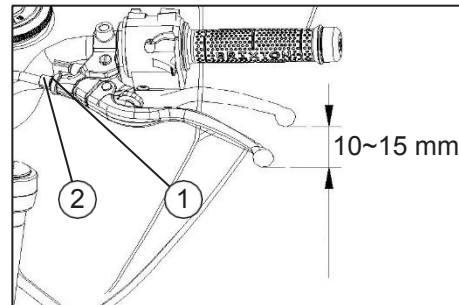
燃料タンクを持ち上げて、燃料パイプに損傷や漏れがないか確認し、問題があるようであれば、交換してください。

燃料システムのラインには、よく見ないとわからないような、無数の小さな穴が開いていることがあります。漏れなどが無いか定期的に点検し、問題が見つかったら必ず販売店に相談しましょう。

注意

燃料タンクは乱暴に持ち上げないでください。

クラッチレバーの遊び



クラッチレバーの先端の遊びを計ります。正常値は10～15mmですが、もし正常範囲でない場合は以下の手順で調整してください。

微調整

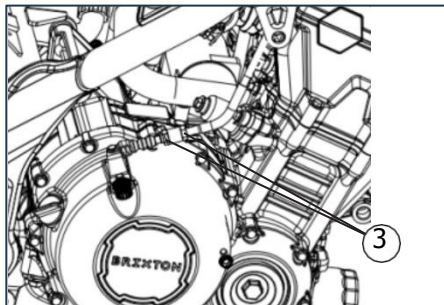
1. クラッチケーブルロックナット(1)を緩めます。
2. クラッチケーブルアジャスター(2)を回して調整します。
3. クラッチケーブルロックナット(1)をしっかりと締めます。

クラッチレバーの遊び

10～15mm

定期点検と簡単な修理

本格的な調整



1. クラッチケーブルアジャスターのロックナット(3)を緩めます。
2. クラッチの位置を適切な位置に調整します。
3. ロックナット(3)をしっかりと締めます。

注意

クラッチレバーの遊びが適切でないと、クラッチやシフト機構の摩耗を早める原因になります。自身での調整が難しい場合は、販売店にて行うようにしてください。

スロットルボディ

スロットルボディのスロットルストップスクリュー(アイドリング調整ネジ)が適正に調整されているか確認するため、エンジンが完全に暖まってからアイドリング回転数が安定しているか確認します(アイドリング回転数は 1200 ± 120 回転)。不具合が見つかった場合は、BRIXTON正規販売店にて調整を行ってください。

アイドリングスピード

1200±120RPM

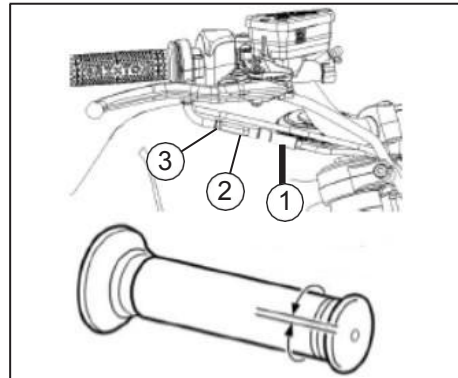
スロットルケーブルの遊び

スロットルケーブルの遊びの調整

1. ラバースリーブ(1)を外します。
2. ロックナット(2)をゆるめます。
3. 調整ナット(3)を回して、スロットルケーブルの遊びを2.0~4.0mmに調整します。
4. ロックナット(2)を締結します。
5. ラバースリーブ(1)を取り付けます。

スロットルケーブルの遊び

2~4mm



1. ラバースリーブ
2. ロックナット
3. 調整ナット

▲ 警告 ▲

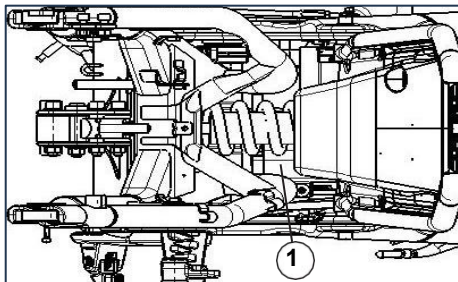
スロットルケーブルの遊びを調整した後は、必ず、スロットルを離せば元の位置に戻るか、アイドリングスピードが必要以上に上がらないか確認してください。

定期点検と簡単な修理

蒸発放出制御システム- EVAP

この車両には、燃料が大気中に蒸散するのを防ぐ制御システムが搭載されています。このシステムは、以下の手順で定期的な点検を行ってください。

- 全てのパイプがしっかりと接続されているか確認します。
- 全てのパイプと、カーボンキャニスター(1)にヒビや損傷が無いか確認し、問題があれば交換します。
- 全てのパイプと、カーボンキャニスター(1)に詰まりがないか点検し、必要に応じて交換します。



▲ 警告 ▲

EVAPの点検や交換が必要な場合は、必ずBRIXTON正規販売店にて行ってください。

ドライブチェーン

この車両には、特殊素材のドライブチェーンが装備されています。このドライブチェーンには特殊なOリングが付いており、その中に潤滑剤(グリース)が封入されています。ドライブチェーンの交換が必要な場合は、必ずBRIXTON正規販売店にて行ってください。

▲ 警告 ▲

ドライブチェーンは、毎乗車前には必ず点検し、安全を確認してください。

ドライブチェーンは、毎乗車前に以下の手順に従って点検・調整を行ってください。

ドライブチェーンの点検中に、次の問題(項目)がないか確認します。

- チェーンピンがゆるんでいる。
- ピンローラーが損傷している。
- チェーンリンクが乾燥、錆びている。
- チェーンリンクに柔軟性がない。
- 過度な摩耗がある。
- 調整が適正ではない。

ドライブチェーンの不適切な調整や、何かの問題が見つかった場合は、BRIXTON正規販売店にお尋ねください。

ドライブチェーンの摩耗状況は、同時にスプロケットの摩耗も表します。

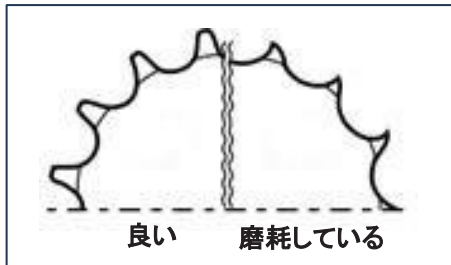
併せて、スプロケットの状態も必ず点検しましょう。

- スプロケットに過度の摩耗がないか。
- スプロケットの歯に損傷はないか。
- スプロケットの固定ナットに緩みはないか。

もし、上記のような問題が発見されたら、必ずBRIXTON正規販売店にて修理を行ってください。

定期点検と簡単な修理

スプロケットの摩耗インジケーター



▲ 警告 ▲

ドライブチェーンの不適切な取り付けは、非常に危険です。スプリットロックリングタイプのドライブチェーンは使用せず、交換の際は、専用ツール(工具)を使い、良質のノン・スプリットロックリングタイプを使用してください。交換は、BRIXTON正規販売店にご依頼ください。

注意

ドライブチェーン交換時は、同時にフロントとリアのスプロケットの摩耗も必ず確認し、必要に応じて交換を行ってください。

ドライブチェーンの清掃と潤滑

ドライブチェーンは、以下の手順で定期的に清掃と潤滑を行ってください。

1. シールリングを傷つけないように注意しながら、チェーンの汚れや埃を取り除きます。
2. シールリングチェーン用洗剤、または水と中性洗剤で、チェーンを洗浄します。
3. シールリングを傷つけないように、柔らかいブラシで優しく洗浄します。
4. 中性洗剤や水を優しく拭き取り、チェーンを自然乾燥させます。
5. チェーンとインナー、アウター、両方のプレートに専用のドライブチェーンオイルを注油します。
6. チェーンにすみずみまで注油したら、余分な潤滑剤は綺麗に拭き取っておきます。

注意

チェーン潤滑剤の中には、シールリングを傷つける恐れのある溶剤や添加剤が入っているものもあります。必ず、専用の潤滑剤を使用してください。

▲ 警告 ▲

チェーンの清掃が正しく行われないと、シールリングの損傷を招き、チェーンが破損する恐れがあります。塗料の薄め液やガソリンといった、揮発性の溶剤は使用しないでください。チェーン洗浄には、高圧洗浄機や、ワイヤーブラシは使用しないでください。

ドライブチェーンの調整

ドライブチェーンの弛みは必ず適正に調整される必要があります。車両の使用状況によっては、より頻繁に調整を行う必要があります。

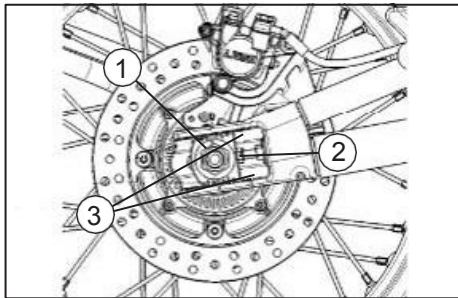
▲ 警告 ▲

ドライブチェーンの張りが緩いと、スプロケットからチェーンが外れて、事故につながったり、エンジンに深刻な損傷を与える恐れがあります。毎乗車前には、必ずドライブチェーンの弛みがないか確認してください。

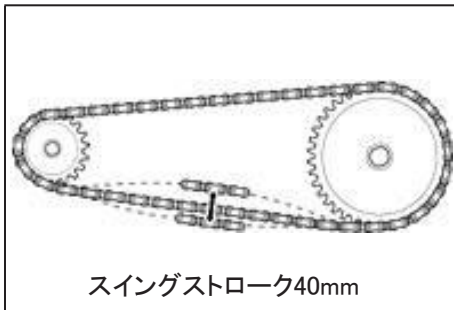
定期点検と簡単な修理

以下の手順でドライブチェーンの調整を行ってください。

1. サイドスタンドを出して、車両を立てます。



2. ホイールアクスルナット(1)を緩めます。



スイングストローク40mm

3. 調整ナット(2)を回してトランスミッションチェーンの弛みを調整します。また、フロントとリアのスプロケット・アライメント(位置合わせ・並び具合)を確実にするために、左右のマーク印を、取り付け位置(3)に合わせて調整します。
4. ホイールアクスルナット(1)を締結します。
5. もう一度ドライブチェーンの弛み具合を確認し、必要に応じて再調整します。

リア・アクスルナットのトルク

80~90Nm

▲ 警告 ▲

この車両のトランスミッションチェーンは、特別な原材料で出来ています。交換する際は、必ず純正パーツを使用してください。代替パーツは、摩耗を早める可能性があります。

ドライブチェーンの仕様

エンドレスチェーンDID 520

112リンク

ブレーキシステム

フロント・リア、両者にはディスクブレーキが装備されています。安全にお乗りいただくには、ブレーキシステムが正しく動作することは必須です。ブレーキシステムは、定期的IBRIXTON正規販売店で点検してください。

ブレーキシステムは、以下の手順で点検してください。

- ブレーキ液の量を点検します。
- フロント・リアブレーキからの液漏れはないか点検します。
- ブレーキ液ホースに損傷や漏れはないか確認します。
- ブレーキディスクの摩耗を点検します。
- フロント・リアブレーキを操作し、正しく機能しているか確認します。

▲ 警告 ▲

安全にお乗りいただくために、ブレーキホースやブレーキフルードは、定期点検の周期を超えてしまわないように、必ず適切な時期に点検を行ってください。

定期点検と簡単な修理

▲ 警告 ▲

ライダーの安全を守るために、ブレーキシステムは非常に重要な装備です。

ブレーキは頻繁に点検し、調整を行ってください。

また、ピストンの動作を妨げないよう、定期的にブレーキ・キャリパーの清掃を行ってください。

ブレーキシステムのメンテナンスが必要な場合は、必ず専門の知識と技術を持つ販売店にて行う必要があります。

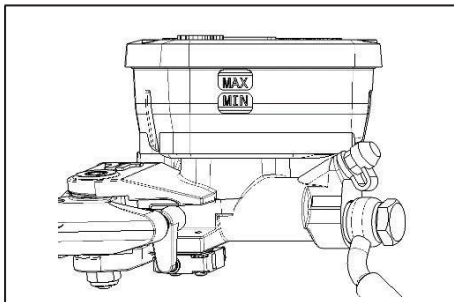
是非、BRIXTON正規販売店に依頼されますようお願いいたします。

ブレーキフルードの仕様

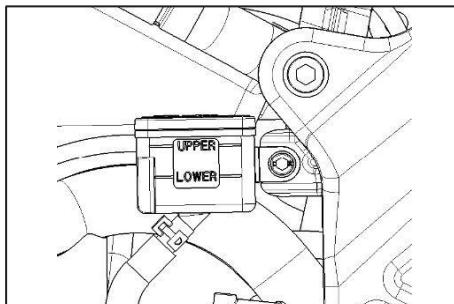
DOT4

推奨: MOTUL DOT 3 & 4 BRAKE FLUID

フロント・ブレーキフルード・リザーバ



リア・ブレーキフルード・リザーバ



フロント・リアの、ブレーキフルードリザーバの液レベルは、必ず定期的に点検してください。「LOWER」マークより下がっている場合、ブレーキパッドの摩耗と液漏れが無いかが、必ず確認します。

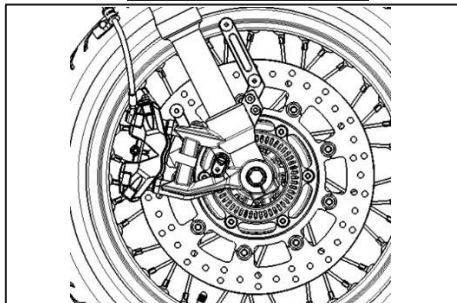
▲ 警告 ▲

ブレーキフルードは人体に有害であり、誤って飲み込んでしまうと死に至ることもあります。また、皮膚や目に触れること、あるいは動物にも同様に有毒です。

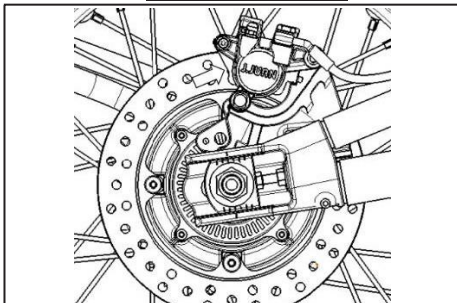
万が一飲み込んでしまった場合は、絶対に嘔吐させずに、一刻も早く医療措置を受けてください。ブレーキフルードが目に入ってしまった場合は、すぐに綺麗な水で洗い流し、速やかに医師の診断を受けるようにしてください。子供やペットがブレーキフルードに触れないように、充分注意しましょう。また、作業後は必ずよく手を洗ってください。ブレーキフルードの品質を悪化させ、車両のシステムに悪影響を及ぼしますので、塵や埃、珪酸塩(シリカ)や石油系の液体が入らないように、必ず蓋の閉まる容器で保管します。使用済みのフルードを再利用することは絶対にしないでください。また、フルードが車体の塗装面やプラスチック面に付着したら速やかに拭き取ってください。

定期点検と簡単な修理

フロントブレーキパッド

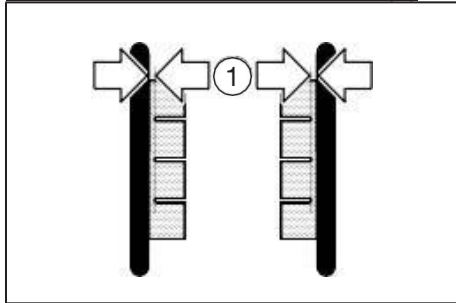


リアブレーキパッド

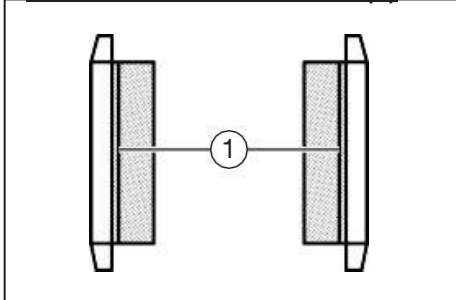


フロントまたはリアブレーキパッドが、摩耗限界マークに達していないか確認してください。交換が必要な際は、BRIXTON正規販売店にて、フロント・リア同時に交換を行ってください。

フロントブレーキパッドの摩耗限界(1)



リアブレーキパッドの摩耗限界(1)



磨耗していないか、定期的に点検してください。ブレーキディスクが磨耗している可能性があります。

▲ 警告 ▲

ブレーキが頻繁に検査およびメンテナンスされない場合、または適時に交換されない場合(交換が推奨されているにもかかわらず)、事故の可能性が高くなります。

ブレーキディスクの交換が必要な場合は、当社指定の修理工場にご依頼ください。ブレーキパッドは推奨される方法に従って点検、整備してください。

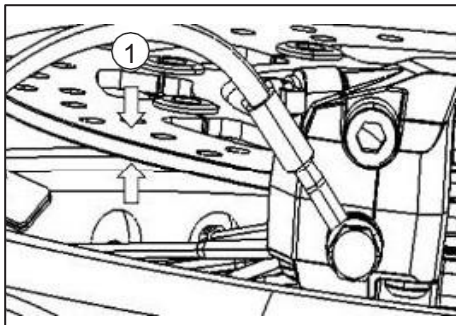
ブレーキシステムのメンテナンスやブレーキパッドの交換後は、所定の油圧抵抗が回復するまでブレーキレバーまたはブレーキペダルを数回操作してください。ブレーキ性能が低下し、事故の原因となります。

注意

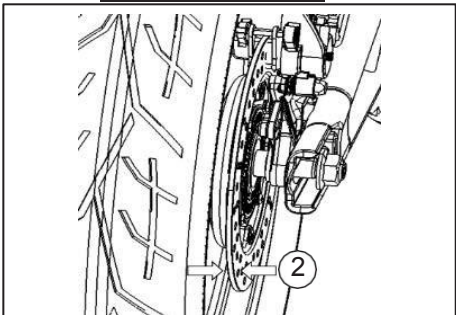
2枚のブレーキパッドのうち1枚だけを交換すると、ブレーキのバランスが崩れます。ブレーキパッドは2枚同時に交換してください。

定期点検と簡単な修理

フロントブレーキディスク



リアブレーキディスク



フロント(1)とリア(2)のブレーキディスクをチェックする重要なポイントは厚さです。

ブレーキディスクの最小厚さ

フロント: 4.5mm

リア: 4.0mm

▲ 警告 ▲

新しいブレーキディスクまたはブレーキパッドを取り付けた後は、制動距離が元の制動距離より長くなる場合があります。300 km を走行すると、ブレーキが完全にブレーキインされ、制動距離は元の制動距離と同等かそれ以上になります。ブレーキが完全にかかる前に、前車との安全距離をより大きく保ってください。

ブレーキディスクとブレーキパッドを同時に交換することをお勧めします。そうすることで両方の摩耗が軽減され、良好なブレーキ性能が保証されます。

タイヤ

▲ 警告 ▲

タイヤはバイクと地面を繋ぐ重要なものです。

乗車前に毎回タイヤの状態とタイヤ空気圧を確認してください。

タイヤの空気圧が低すぎたり高すぎたりする場合は、適切な空気圧に調整してください。

オートバイの過負荷を避けてください。

タイヤが摩耗限界に達した場合、またはタイヤ表面に亀裂や損傷がある場合はタイヤを交換してください。必ず指定されたサイズと仕様のタイヤを使用してください。

タイヤの慣らし運転が不完全な場合、タイヤがスリップしてコントロールを失う原因となります。

新品タイヤ装着時は特にご注意ください。

「新品タイヤの慣らし運転」の項に従ってタイヤの慣らし運転を行ってください。

定期点検と簡単な修理

タイヤの空気圧と荷重

正しいタイヤ空気圧と正しいタイヤ荷重は2つの重要な要素です。過負荷はタイヤの故障を引き起こし、事故につながる可能性があります。バイクに乗る前に毎回タイヤの空気圧をチェックし、タイヤの空気圧が荷重に見合ったものであることを確認してください。走行後にタイヤの空気圧を確認すると、通常よりも空気圧が高くなっている場合があります。

タイヤの空気圧が低すぎると曲がりにくくなり、タイヤの摩耗が早まります。タイヤの空気圧が高すぎると、タイヤと地面の接触面積が減少し、横滑りやコントロールの喪失を引き起こしやすくなります。

常温条件での推奨タイヤ空気圧

タイヤの空気圧	ライダーのみ	ライダー & パッセンジャー
フロントタイヤ	2,2bar	2,5bar
リアタイヤ	2,2bar	2,7bar

注意
タイヤの空気圧が下がったら、タイヤに釘やネジなどの鋭利なものが刺さっていないか確認してください。その場合はディーラーにタイヤ交換を依頼してください。

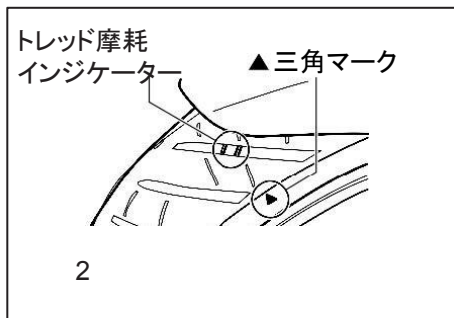
タイヤの状態と仕様

欠陥または損傷したタイヤ、および指定されていないタイヤは、オートバイの取り扱いに影響を与えます。タイヤが摩耗しすぎるとタイヤがパンクし、バイクのコントロールができなくなります。タイヤの摩耗はタイヤの外観にも影響を与え、タイヤの動作性能も変化します。バイクを使用する前に毎回タイヤの状態を確認してください。

注意
トレッド摩耗インジケーターは三角形のマークで示されます。トレッド摩耗インジケーターが地面/道路に接触すると、タイヤは摩耗限界に達しています。タイヤを交換する必要があります。

タイヤを交換するときは、新しいタイヤのサイズとモデルを確認してください。タイヤは下表の通りです。下表と異なるタイヤサイズや車種を装着した場合、ハンドリングに影響を与え、コントロール不能となる恐れがあります。

フロントタイヤ	リアタイヤ
120/70 ZR 17 チューブレス	160/60 ZR 17 チューブレス



▲ 警告 ▲

タイヤの空気圧と路面状態は、オートバイの機能と安全性にとって非常に重要です。タイヤの空気圧と路面を頻繁にチェックしてください。

定期点検と簡単な修理

▲ 警告 ▲

チューブレスタイヤは以下の内容を守らないと事故の原因となります。チューブレスタイヤとチューブ入りタイヤではメンテナンス方法が異なります。チューブレスタイヤのリムとビードの接触部分はシールされています。タイヤのパンクを防ぐために、タイヤのリムとビードを保護するためにチューブレスタイヤの取り外しと取り付けには特別な工具と特別なタイヤチェンジャーが必要です。チューブレスの小さな穴の補修に
タイヤの場合は、タイヤを取り外して内側からパッチを当てなければなりません。回転時のタイヤ遠心力によりパッチが緩む可能性があるため、外装パッチ方式は採用しないでください。オートバイの速度は、タイヤ修理後24時間以内は時速80キロを超えてはならず、その後は時速130キロを超えてはなりません。速度が制限を超えると、タイヤから発生する熱が急激に増加し、パッチの効果が得られなくなる可能性があります。

タイヤのパンクの原因となります。タイヤ側面に損傷がある場合、または損傷部分が6mmを超える場合は、タイヤを修理または継続使用することができません。

修理または交換後は、タイヤのバランスを取る必要があります。タイヤのバランスをとることは非常に重要です。タイヤのバランスを整えることで、タイヤと地面との接触が不安定になったり、偏摩耗を避けたりすることができます。

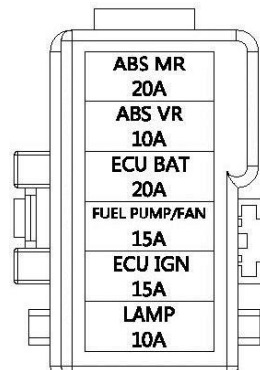
▲ 警告 ▲

修理または取り付け後にタイヤのバランスが適切に調整されていないと、事故の危険性が高まり、タイヤの寿命が短くなります。タイヤの整備・交換・バランス調整は必要な工具と経験を備えた当社指定整備工場で行ってください。タイヤの側面に表示されている方向に従ってタイヤを取り付けてください。

フューズ

ヒューズ一覧

30 A	メインヒューズ
10 A	ヘッドライト
15 A	ECU-電源
15 A	燃料ポンプ/ファン
20 A	ECU-動作電圧
15 A	ABS - 電源
25 A	ABS - 使用電圧



定期点検と簡単な修理

▲ 警告 ▲

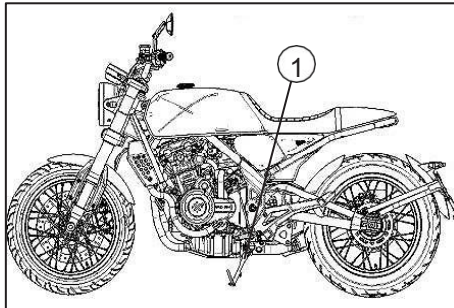
所定の仕様以外のヒューズを使用したり、ヒューズを使用せずに直接接続したりしないでください。電気系統に重大な影響を与え、火災やバイクの焼損、エンジンパワーの喪失などの原因となり大変危険です。必ず規定の定格電流のヒューズのみを使用してください。アルミホイルや鉄線などの代用品は使用しないでください。ヒューズが短期間に頻繁に切れる場合は、電気システムに障害があることを示しています。点検・整備は整備工場へご依頼ください。

ECU

(エンジンコントロールユニット)

ECUは、非常に高度な調整が必要なエンジンとその排出ガス制御システムの重要な部分です。したがって、ECUの調整はディーラーに任せてください。

サイドスタンド



サイドスタンド(1)の動作は乗車前に必ずチェックし、必要に応じてピボットと金属間の接触面に注油する必要があります。

▲ 警告 ▲

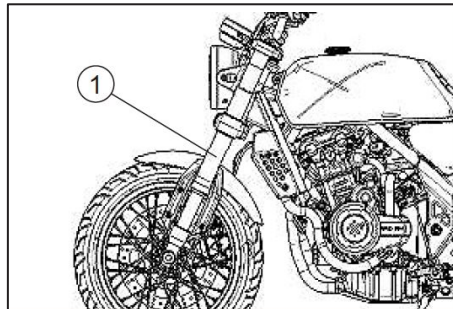
サイドスタンドの折りたたみがスムーズにできない場合は、販売店で点検・修理をご依頼ください。

フロントフォーク

フロントフォーク(1)の状態および動作は、定期整備表に定められた間隔で次のとおり点検してください。

注意

転倒の危険がないようにバイクをしっかりと支えてください。



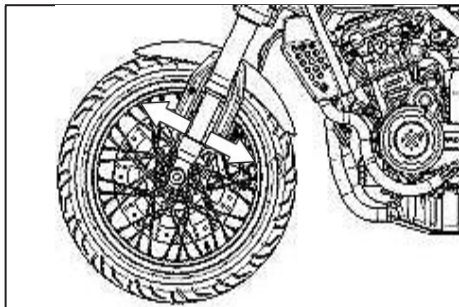
1. バイクを走行状態で駐車する
2. インナーチューブに傷、破損、油漏れがないか確認してください。
3. フロントブレーキを掛け、ハンドルバーを数回強く押し下げてフォークのサスペンションを確認します。

▲ 警告 ▲

フォークが損傷した場合は販売店にご連絡ください。フォークを掃除するときは、ブレーキやタイヤに洗剤がつかないように注意してください。

定期点検と簡単な修理

ステアリングヘッドベアリング

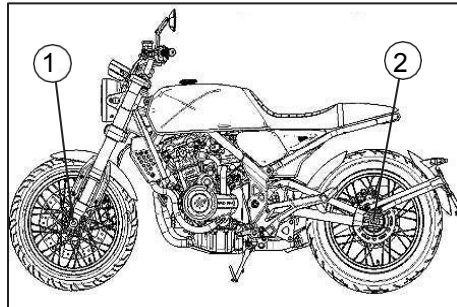


1. 適切なバイクスタンドにバイクを置き、前輪を地面から浮かせます。
2. フロントフォークの脚の下端を持って、前後に動かしてみます。
3. 遊びが感じられる場合は、販売店でステアリングの点検または修理を依頼してください。

▲ 警告 ▲

ステアリングベアリングが摩耗したり緩んだりすると、危険が生じる可能性があります。したがって、定期保守および注油表に定められた間隔で、次のとおりステアリングの動作を確認する必要があります。

ホイールベアリング



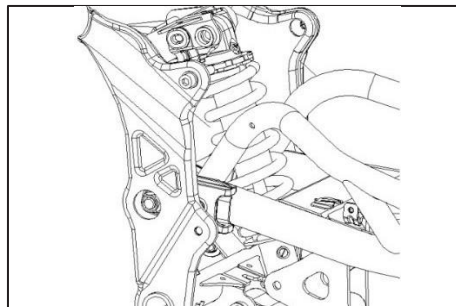
次の手順でホイールベアリング(1)と(2)を確認します。

1. オートバイを適切なスタンドに置き、前輪と後輪を地面から浮かせます。
2. ホイールを回して、何か異常な音が聞こえる場合、またはホイールが思うように自由に回転しない場合は、ディーラーにホイールベアリングをチェックしてもらいます。

注意

ホイールハブに遊びがある場合やホイールがスムーズに回転しない場合は、販売店でホイールベアリングの点検を依頼してください。

リアショックアブソーバー



リアショックアブソーバ(1)はオイル抜けのみ確認可能です。正確な診断は当社指定整備工場でのみ行うことができます。

- ・オイルの損失は、シールが摩耗していることを示している可能性があります。
- ・走行中にバイクがスポンジ状になったように感じたり、ポットホールが目立つようになった場合は、ショックアブソーバーが磨耗している可能性があります。

▲ 警告 ▲

ショックアブソーバーを分解しないでください。スプリングには高い張力がかかっています。命の危険があります！

トラブルシューティング

工場出荷前に十分な検査を行っておりますが、走行中にトラブルが発生する場合がございます。

たとえば、燃料、圧縮、点火システムに問題があると、始動不良や動力損失が発生する可能性があります。

次のトラブルシューティングチャートは、これらの重要なシステムを自分でチェックするための迅速かつ簡単な手順を示しています。

ただし、車両の修理が必要な場合は、ディーラーに持ち込んでください。ディーラーの熟練した技術者は、車両を適切に整備するために必要なツール、経験、ノウハウを持っています。

純正交換部品のみを使用してください。模造部品は本物の部品のように見えますが、多くの場合粗悪で耐用年数が短く、高額な修理費がかかる可能性があります。

▲ 警告 ▲

燃料システムの作業中は裸火を遠ざけ、喫煙しないでください

トラブルシューティング

トラブルシューティングチャート

失敗	原因	やるべきこと
電動スターターボタンを押してもエンジンが始動しない	バッテリーが放電しました	バッテリーを充電 バッテリーの充電を確認する 発電機が正常に動作しているか確認してください
	ヒューズが切れている	ヒューズを交換してください
	スターターリレーの故障	スターターリレーをチェックしてください
	スターターモーターの故障	スターターモーターを確認してください
	ロールオーバーセンサーの組み立てが間違っている	ロールオーバーセンサーの位置を確認してください
エンジンは回転するが始動しない、または停止する	ヒューズが切れている	ヒューズを確認してください
	アイドリング速度が正しく設定されていない	アイドリング速度を調整してください
	スパークプラグが汚れている	スパークプラグを掃除し、電極間隔を確認してください
	点火システムの故障	点火システムをチェックしてください
	ワイヤーハーネスが摩耗している	ワイヤーハーネスを確認してください
	プラグの接触不良	ワイヤーハーネスのプラグを確認してください
	タンクにガソリンが入っていない	ガソリンを補充してください
	燃料ポンプの問題	ポンプを確認してください
	燃料フィルターの問題	フィルターを確認してください
燃料漏れ	燃料回路を確認してください	
エンジンパワーが悪い	エアフィルターが汚れている	フィルターを掃除してください
	燃料フィルターが汚れている	フィルターを掃除してください
	燃料システムの故障	燃料システムをチェックしてください
	点火システムの問題	点火システムをチェックしてください
	バルブクリアランスが少なすぎる	バルブクリアランスを調整してください
エンジンのオーバーヒート	エンジンを冷やし、特に市街地交通ではそのような運転行動を避けてください。	
オイル消費量が多い	エンジンオイルレベルが高すぎる	オイルシステムのエア抜きをする
	シリンダー/ピストンが磨耗している	シリンダー/ピストンを交換する
	エンジンベントホースが曲がっている	ホースのレイアウトを修正する
エンジン警告灯が点灯している	燃料噴射/電気システムの故障	故障箇所を特定するには販売店に問い合わせてください

清潔と保管

洗車する

適切かつ適切な方法で車両を掃除すると、バイクの魅力がさらに高まり、寿命が長くなります。

洗車前

・マフラー出口に水が浸入しないようにビニール袋などで覆ってください。走行後、部品が冷えるまで十分な時間をおいてから行ってください。

・清掃中は、水が浸入しないように、すべてのキャップ、カバー、電気コネクタなどを閉じてください。

注意

・酸ベースのクリーナーは使用しないでください。このようなクリーナーを頑固な汚れに使用する場合は、時々のみ使用し、すぐに乾燥させてから腐食防止スプレーを塗布してください。
・お手入れと洗浄剤については、常に製造元の指示に従ってください。

・損傷を防ぐため、車両のデリケートな部品には水と中性洗剤またはディーラーから販売されている特別なクリーナーのみを使用することが最善の選択です。プラスチック部品を乾燥させてから、柔らかく乾いた布またはスポンジで拭きます。

・特にプラスチック部品、塗装、ヘッドライトガラスを燃料、錆び除去剤、ブレーキクリーナーなどの強力な化学物質から保護します。このような薬剤を使用すると、誤動作や破損を引き起こし、安全性に影響を与える可能性があります。

・水がコネクタやスイッチ、照明、換気ホース、ブレーキシュー、ブレーキライニングなどの電気部品に浸透したり、シールや塗装、その他の表面を損傷したりする可能性があるため、高圧洗浄機やスチームクリーナーは使用しないでください。

通常使用後の清掃

ぬるま湯、中性洗剤、柔らかい清潔なスポンジで汚れを取り除き、きれいな水でよく洗い流してください。

届きにくい部分には歯ブラシまたはボトルブラシを使用してください。

雨天、海の近く、または塩水が舞う道路を走行した後の清掃

海塩や冬季に道路に散布された塩は水と結合すると非常に腐食性が高いため、乗車後は毎回次の手順を実行してください。

注意

・エンジン/排気が冷えるまで待ちます。
・冷水と中性洗剤を使用して車両を掃除してください。
・塩の腐食作用が高まるため、熱湯は使用しないでください。
・クロムメッキやニッケルメッキを含むすべての金属表面に腐食防止スプレーを塗布します。

洗車後

・車両を乾燥させます。
・錆を防ぐため、メーカーの指示に従って適切なケア製品を使用することをお勧めします。

- すべての塗装面にワックスを塗りませす。

▲ 警告 ▲

- ブレーキやタイヤにオイルやワックスが付着していないことを確認してください。
- 必要に応じて、ブレーキディスクとブレーキライニングを通常のブレーキディスククリーナーで洗浄し、タイヤを温水と中性洗剤で洗います。
- 車両を運転する前に、ブレーキ性能とタイヤをテストしてください。

保管期間 短期(数日間)

車は常に涼しく乾燥した場所に保管してください。必要に応じて、車両カバーを使用してほこりから保護してください。

▲ 警告 ▲

可能であれば、乾燥した空気の換気の良い室内に車両を保管してください。湿気が多い場所ではサビの原因となります。

保管期間 長期(数週間)

車両を清掃し、燃料タンクを完全に充填するか、必要に応じて燃料安定剤を追加して、燃料タンクの錆びや燃料の劣化を防ぎます。

防錆

シリンダー、ピストンリング等の錆を防ぐには以下の手順で行ってください。

- 点火プラグキャップと点火プラグを取り外します。
- 点火プラグの穴に小さじ1杯のエンジンオイルを注入します。
- スタートボタンを数秒間押し、エンジンを数回回転させます(シリンダーに油が注がれます)。
- 点火プラグを元に戻し、点火プラグキャップをかぶせます。

▲ 警告 ▲

この作業中、点火プラグが車両の金属部品に接触していないことを確認してください。

説明に従って、すべてのケーブルとレバー、ペダル、フットレスト、サイドスタンドのピボットポイントに注油します。

• タイヤの空気圧を確認して修正し、2つの車輪がいずれも地面につかないように車両を地面から持ち上げます。それが不可能な場合は、車輪が常に同じ場所に立たないように(スタンドの損傷)、毎月少しずつ車輪を回転させます。

- 湿気の侵入を防ぐために、排気管の上にビニール袋をかぶせます。
- バッテリーを取り外し、説明に従って取り付けます。バッテリーは乾燥した状態で冷暗所に保管し、少なくとも2か月ごとに再充電してください。バッテリーは過度に低温または高温にならないように保管してください(0 °C 未満または 30 °C 以上)。

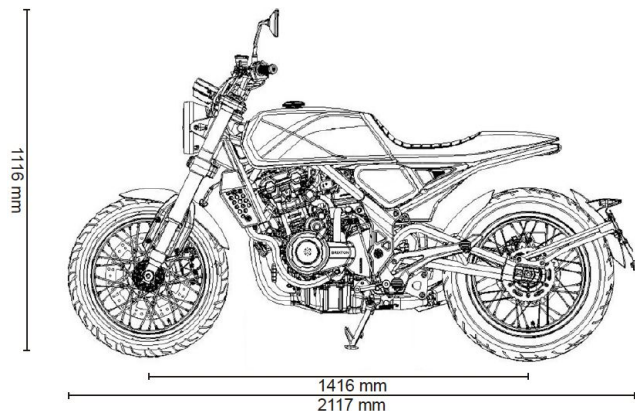
注意

保管する前に必ず必要な修理を行ってください

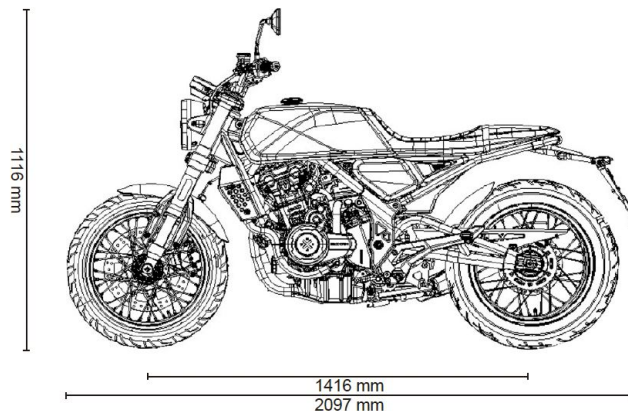
仕様

モデル

クロスファイア500



クロスファイア 500 X



寸法と重量

長さ	2117 mm (Crossfire 500), 2097 mm (Crossfire 500 X)
幅	757 mm (Crossfire 500), 851 mm (Crossfire 500 X)
高さ	1116 mm
ホイールベース	1416 mm
走行時の質量	190 kg
最大積載量	160 kg
許容最大積載質量	350 kg

エンジン

タイプ	2気筒4ストロークエンジン、DOHC、シリンダーあたり4バルブ、水冷
シリンダー配置	前傾2気筒
変位	486 ccm
圧縮率	10.7 : 1
内径(ボア)	68 mm
ストローク	67 mm
最大出力	35 kW @ 8500 RPM
最大トルク	43 Nm @ 6750 RPM
潤滑	加圧潤滑
点火	ECU
スターター	電動スターター
スパークプラグの種類	NGK CPR8EA
定常ノイズ	96 dB(A) @ 4250 RPM
走行音	77 dB(A)
トランスミッション	
トランスミッション	6速マニュアル
ファイナルドライブ	ドライブチェーン
クラッチ	オイルバス式多板クラッチ

仕様

液体

エンジンオイル仕様	SAE 10W-40
エンジンオイル量	3.0 L (3.2 L with oil filter)
クーラント仕様	-45°C antifreeze coolant
クーラント量	2.9 L
ブレーキフルード仕様	DOT4

燃料

燃料仕様 無鉛燃料のみ、RON/ROZ 最小 95

燃料量

13.5 L ± 0.2 L

E5

 警告 

！ バイオエタノール燃料- E10 は許可されていません

シャーシ

フロントサスペンション	倒立式テレスコピックフォーク
リアサスペンション	シングル・ショックアブソーバー付きスイングアーム

走行性能

最高速度	160 km/h
燃料消費量	4.0 L/100 km
CO2排出量	92 g/km
最大勾配	25°

ブレーキシステム	
フロントブレーキディスクサイズØ	320 mm
リアブレーキディスクサイズØ	240 mm
フロントブレーキキャリパー	油圧作動2ピストンブレーキキャリパー
リアブレーキキャリパー	油圧作動1ピストンブレーキキャリパー
ABS	フロントとリア
ホイール	
フロントリムサイズ	MT 3.5 x 17
リアリムサイズ	MT 4.25 x 17
フロントタイヤ寸法	120 / 70 ZR 17 チューブレス
リアタイヤ寸法	160 / 60 ZR 17 チューブレス
フロントタイヤ空気圧	2.2 bar (1 人)、2.5 bar (2 人)
リアタイヤ空気圧	2.2 bar (1 人)、2.7 bar (2 人)
ライト	
ヘッドライト仕様	12 V, 19 W/19 W
フロントポジションライト仕様	12 V, 1 W
ターンライト仕様	12 V, 1 W
テールライトブレーキライト仕様	12 V, 1 W/3 W
ナンバー灯仕様	12 V, 1 W

仕様

バッテリー

電圧

12 V

容量

8 Ah

ヒューズ

メインヒューズ

30 A

ヘッドライト

10 A

ECU電源

15 A

燃料ポンプ・ファン

15 A

ECU動作電圧

20 A

ABS電源

15 A

ABS 動作電圧

25 A



著作権 ©2020

無断転載を禁じます。

このユーザーマニュアルには著作権があります。

製造者の書面による許可なく、機械的、電子的、またはその他の形式で複製することを禁じます。

著作権は企業/メーカーに帰属します:

KSRグループ GmbH

アイム ヴィルトシャフトパーク 15

3494 ゲデルスドルフ

オーストリア

日本国内販売元

モータリスト合同会社

東京都大田区仲六郷 2-41-8

製品および仕様は予告なく変更される場合があります。

